

平成24年12月11日

1. 出席議員

議長 杉原豊喜
1番 朝長 勇
3番 上田雄一
5番 山口良広
7番 宮本栄八
9番 石橋敏伸
11番 上野淑子
14番 末藤正幸
16番 小柳義和
19番 山口昌宏
21番 牟田勝浩
23番 黒岩幸生
26番 江原一雄

副議長 山崎鉄好
2番 山口 等
4番 山口裕子
6番 松尾陽輔
8番 石丸 定
10番 古川盛義
12番 吉川里己
15番 小池一哉
17番 吉原武藤
20番 川原千秋
22番 松尾初秋
24番 谷口攝久

2. 欠席議員

25番 平野邦夫

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局 長 筒井孝一
次 長 松本重男
議事係 長 川久保和幸
議事係 員 江上新治

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	樋	渡	啓	祐
副	市	長	前	田	敏	美
教	育	長	浦	郷		究
政	策	部	角			眞
つ	な	が	宮	下	正	博
營	業	部	森		孝	畑
營	業	部	北	川	政	次
く	ら	し	山	田	義	利
こ	ど	も	蒲	原	惠	子
ま	ち	づ	石	橋	幸	治
山	内	支	成	松		薫
北	方	支	坂	口		勉
会	計	管	浦	川	正	盛
教	育	部	古	賀	雅	章
教	育	部	白	濱	貞	則
水	道	部	松	尾	満	好
総	務	課	中	野	博	之
財	政	課	水	町	直	久
企	画	課	平	川		剛
選	挙	管	末	藤	彰	彦
理	委	員				
会	事	務				
事	務	局				
長						

議 事 日 程 第 3 号

12月11日（火）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

平成24年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
5	12 吉 川 里 己	1. 給湯事業の拡大 2. 学校給食委託の改善 3. 選挙事務の簡素化 4. 図書館の充実 5. 保育所の民営化
6	14 末 藤 正 幸	1. 市政について 1) 震災地支援について 2) リフォーム事業について 3) 太陽光発電について 4) 市営住宅について 2. 教育関係 1) 学校給食について 2) 安全・安心について 3. 道路関係 1) 国道35号線S字カーブ改良について 2) 県道改良について
7	11 上 野 淑 子	1. 福祉の充実 1) 福祉避難所について 2) 施設の防災訓練の現状は 3) 身体の不自由な人への援助は (図書館の利用) 2. 教育 1) 再度、いじめについて 2) 連携とは (学校、地域、家庭、行政) 3. 健康づくり 1) オルレについて
8	3 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. 教育について 2. まちづくりについて

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

皆さんおはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は3番上田議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、12番吉川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長から登壇の許可をいただきましたので、自由民主党政策研究クラブ吉川の一般質問を始めさせていただきます。（全般モニター使用）

今回は給湯事業の拡大、学校給食委託の改善、選挙事務の簡素化、図書館の充実、保育所の民営化、以上、主なもの5点について質問を展開させていただきたいと思います。

まず初めに、11月16日、17日、18日の3日間で開催されました日本フェイスブック学会、これと同時並行に行われた「がばい武雄の物産祭り」ですね。これにおきましては、約6万人の方に御来場をいただいたということで、非常に盛会に終えたというふうに思っております。そしてまた、このフェイスブック学会におきましては、この武雄市議会の本会議場を初めて活用して、500名の皆さんがおいでいただいたということでありました。

その中で、私も若干時間をとって参加をさせていただいたわけではありますが、そのときの一コマの中でリッツ・カールトンですね、日本でも超一流のホテルの支社長である高野登さんのお話がちょっとあったんですけれども、これはホスピタリティという話で、9つのドットを一つの例に出されて、いろいろあったんですけど、そのうちの一つなんですけど、9つのドットを全て通るように一筆書きで4辺で仕上げなさいという課題があったんですね。やはり、物事を考えていく、今、何が必要なのかといったことを考えていく必要性をこのときにいろいろと御講演をいただいたわけであります。

そしてまた、潜在的に表面に出てきていないニーズをどのように掘り起こすのかといったところに力を入れるべきだと、この武雄市は樋渡市長になって、この樋渡市長は全国の自治体の中でも、このニーズを掘り起こす力はナンバーワンだということで、これまでの市政運営について評価をいただいていたところでもあります。そしてまた、言われたのは、ぜひ枠を飛び出して仕事をしてくださいということを言われました。

この9つのドットの一つの答えをおっしゃったんですけれども、4辺でこういう形になりますね。こうすれば、全てのドットをカバーできるということで、ぜひこの既存の枠にとらわれずにやっていく必要があるということでもあります。

ニーズを掘り起こすといった部分は、大きく言って市長の役目ですね。どちらかという

戦略をどう立てるか、その戦略に応じて、どのような戦術で臨んでいくのかといったことであります。どちらかという、この戦術はやはり市長プラス市の職員さん、また議会の議員であったり、市民の皆さんも入ってやっていく。こういったことが必要ではないかなというふうに思いますし、今回、5つほど質問をさせていただきますけれども、ぜひ、既存の枠に捉われずに考えていただいて、前向きな答弁をお願いしたいというふうに思っております。

まず、1点目の給湯事業でございますが、この給湯事業の状況についてお伺いをさせていただきますけれども、まず、この給湯事業については保養村、この一帯に泉源が3本ありまして、その中の今、2本を活用されているということで、そこからポンプアップした給湯を山頂の200トンの給湯タンクにためて、そこから各宿泊施設あるいは観光施設のほうに供給をしていただいているということでもあります。

10年前には、16施設供給をされておりましたけれども、これが現在では14施設ということで若干減っております。この給湯事業、金額ベースで使用料収入をトレンドで10年間見てみますと、平成15年3,766万円ということでピークであります。昨年、23年度は1,876万円ということで、大きく下がってきている。ピーク時からしますと、約50%減になっております。

このことについては、さきに行われた決算審査特別委員会、23年度ですね、これでもう使用料収入の増を図ることということで指摘をされたところでもありますけれども、まずもって、この給湯事業の使用料収入の50%減、大幅減に対してどのような認識を持っておられるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

おはようございます。給湯利用施設の利用減をどう認識しているかということでもありますけれども、議員おっしゃられるとおりに、給湯利用施設については平成24年11月現在で14施設に給湯しております。10年前の平成14年には16施設に給湯しておりまして、10年間で2施設の減少となっております。しかし、収入料金で見ますと、平成15年度の3,766万円をピークに、昨年度は1,876万円と半減をしております。給湯使用料の要因としましては、長引く景気低迷による宿泊客や宴会等の減少、それから、温泉水の循環回数をふやすなどして燃料費の高騰に対する旅館やホテルの経費節約が要因と考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

認識は一緒ですね。その中で現在の給湯事業の会計を若干見ていきたいというふうに思いますけれども、これは平成23年度のデータでありますけれども、一般会計への繰り出しが1,200万円、そして、基金積み立てが200万円、保守点検が153万円、修繕費が123万円、清掃

手数料が65万円ということになっております。これをもう少しわかりやすく、占有率で見ますと、一般会計への繰り出しが何と69%になっています。その次に多いのが基金積み立て11%、保守点検が9%、修繕費が7%、清掃手数料が4%というふうなことで、ランニングコストと言われるところがここですね、保守点検、修繕費、清掃手数料。これを合わせても全体の20%にすぎないと。残りの8割については一般会計への繰り出し。そして、繰り出しをいただいで、それを観光事業等に使われている。また、基金積み立てもしていただいでいるというふうなことで、この会計、非常に優秀な会計だというふうに思っております。

これも10年間のトレンドで見てもみますと、多いところでいきますと平成15年、基金積み立てが1,659万円、一般会計繰り出しが1,500万円、次に多いのが19年、基金積み立てが2,200万円、一般会計繰り出しが1,100万円、そして、平成23年度、昨年ですけれども、基金積み立ては200万円、一般会計繰り出しが1,200万円というふうなことであります。年度で若干でこぼこありますけれども、10年間で捉まえてみますと、一般会計繰り出し1億円の繰り出しをしていただいでいる。それから、積立金については、平成23年度末で約1億円ございます。非常に武雄市の財政運営に大きく寄与をしている給湯事業であるというふうに認識をしておりますけれども、この点についてはいかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

議員さんの資料等と同じでありまして、給湯会計につきましては平成15年度をピークに年々落ち込んでおりまして、昨年度の歳入決算額は2,325万円というふうなことであります。内訳は給湯使用料1,876万円と、繰越金がそのうち449万円となっております。

歳出決算額につきましては約1,929万円で、内訳は施設維持管理費529万円、積立金200万円、一般会計繰出金1,200万円となっております。約390万円を利益剰余金として24年度に繰り越しております。適切な運営に努めております。一般会計繰入金につきましては、過去10年間で1億1,150万円となっております。給湯事業基金積立金の状況につきましては、平成24年11月末現在で基金残高9,778万円となっております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

認識は一緒だというふうに思っております。非常に武雄の財政に大きく寄与をしているのではないかなというふうに思っております。

そういう状況の中で、給湯事業、これはちょっとエリアマップでありますけれども、現在の利用施設を赤いドットで示しております。主に、この御船山周辺、それから、競輪場周辺、そして、保養村一帯、ここに点在をしております。そしてまた、遠くは福岡の万葉の湯さん

のほうに毎日、大型のタンクローリー車で2回、供給をさせていただいているというふうな状況にあるわけでありまして、このマップからいっても、南西のほうに集中をしているんですね。先ほどのグラフからいきましても、給湯使用料が非常に大幅に下がってきているというふうな状況の中では、やはり、このエリアを見直していく必要があるのではないかと、いうふうに思っております。

考えられるものとしては、北部の宿泊施設、そしてまた、駅周辺ですね、それから、東部地区、こういったものがあるというふうに思っております。この東部地区については、老健施設等が建ち並んでおります。それから、駅については今、新幹線の竣工に向けて、新幹線の工事がスタートしているというふうなこと、それから、北部の旅館街ですね。こういったところへのエリアをやはり広げていくべきではないかというふうに思っておりますけれども、この点について、今後どのような打ち手を打っていかれるのかですね。そろそろこういった結論を出していく時期にもう来ているというふうに思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

パネルをかえてほしいんですけれども、ちょっとごめんなさい、見にくくて恐縮なんですがね、（モニター使用）今、泉源の供給能力が1日1,000トンなんです。1日1,000トン出せます、ここから。ちょうどこちらですよ、ここから1,000トン出せるんですけれども、実際に今、出しているのは1日で172トンです。1000分の172しか出してないんですよ。ですので、大幅な供給能力があります。したがって、我々が考えたのは、今、この青の部分というのは既存の配管なんですけれども、今度、赤の点線部分を今後新しく布設しようと思っています。青が4,400メートルで拡張配管のところは約3,000メートルになります。このポイントは、まず、南側、今、どんどん住宅の供給圧力が強まっているこの南側ですので、マンションであるとか、一戸建てがこの拡張配管から給湯を受けるということを期待をする。

それと、最大のポイントは、この武雄温泉駅周辺ですので、ここでホテルであったりとか、足湯であったりとか、そういったことが可能となります。そして、さらには今の案では楼門前まで引っ張ってきておりますけれども、いずれにしても、ここは人口が集まるということからして、交流人口、定住人口を、我々はやっぱり最大の武器は温泉であります。ですので、この温泉を武器として皆さんに住んでもらう、あるいは、交流が膨らんでいくということで供給範囲を広げてまいりたいと思っております。この件については、布設して1年間ぐらいかかってまいりますので、その間にもいろんな議論をしてまいりたいと思いますし、新幹線を見据えて給湯範囲を広げるということは、武雄温泉新幹線プロジェクトからも御意見を承っておりますので、その要請にも応えたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

供給能力が1日1,000トンですね。今現在供給している実績が172トンということで、五、六倍の能力があるということですね。先ほどちょっと言いましたけれども、この東部の老健施設等もありますけれども、そういったところへの拡張ですね、これについてはちょっと答弁なかったんですけれども、条例によると、やはり宿泊施設とか、観光施設、そしてまた、市長が認めるものというふうになっておりますけれども、ぜひこういった老健施設等へもやる方法を考えていくべきではないかなというふうに思っておりますけれども、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

賛成です。その一方で考えなきゃいけないのは、これはどれだけ量を使ってくるかということなんですよね。ですので、何で以前、給湯量があんなに多かったかという、もともとかんぼの宿等の、いわば公共施設というのがやっぱり多く使っていたんですよ。これがもう民営化する、あるいは民間移譲になると、やっぱりそこは節約ということになりますので、この量をどれだけ使ってくるかということで、これは個別にちょっと交渉したいと思います、この部分は。

ですので、基本的には、本当に人生頑張った方々がそういった施設で温泉を、武雄温泉を使ってくるというのは私は大賛成なんですけど、この給湯会計という一方の、我々もこれを経営しなきゃいけないということがありますので、そこは調整の余地はあろうかと、全体的に私は賛成です。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ぜひ前向きに協議をしていただきたいというふうに思っております。

それでは、一番最初に聞く予定にしておりましたけれども、遅くなりましたけれども、物産祭り等でも話題になっておりますし、このフェイスブック学会でも話題になっておりました武雄の「FUN&BUY良品」ですね。これはインターネットを通じて武雄の特産品を全国に売り込むというふうなことでやられておるわけでありましてけれども、今、全国に展開をされて話題になっております。この進行状況等についてお知らせいただければと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、このF&B良品なんですけれども、12月7日から8日にオープンをいたしまして、まず、そのアクセス数が土、日、月で大体5万5,000件。5万5,000件のアクセス数で売り上げ高が、これは武雄市、南砺市、陸前高田市、那須町、薩摩川内、大刀洗、燕三条なんですけれども、合わせて土、日、ここが土、日で恐縮なんですけど、始まったばかりでもう21万円の売り上げ、2日間で21万円、1日半ですね、1日半で21万円の売り上げがあります。

ですので、今後なんですけれども、今、最近出発した南砺市を含めて7自治体ですので、これを3年間で目標は200自治体まで広げていくということです。ですので、Amazon、楽天に並ぶ自治体が行う、やっぱり通販ということで市場を獲得していきたいと思っております。

このメリットは、我々は自治体ですからもうける必要がありません。ですので、大手の通販会社と違って、出店料は取らない。ですので、ぜひ、これはいろんな自治体の皆さんたち、特に議員さんたちがこの市議会を注目されていますので、ぜひ、いろんな自治体の皆さんたちに入っていただきたいということです。

今、考えておりますのは、これ、今までフェイスブックしかやっていない人しか買えなかったのが、12月8日から一般の人も買えるようになりました。一般の人も買えるようになったと。それと、Amazon並みにも使いやすくなっています。

そして、私がほとんど冗談で私のブログにアジアに進出したいということを書いたら、シンガポール側から話があって、今度シンガポールにも進出することにします。2月に商談会に私自身が、また外遊とか言われそうですけどね、シンガポールに参ります。シンガポールに参って、シンガポール政府、あるいはシンガポールの皆さん方と直接交渉をして、そこには、できれば、これは武雄だけでやっても意味ないんですね。ですので、F&B良品の入っていただいた首長さん、そしてやっぱり、武雄が栄えるには周辺が栄えないとやっぱりだめです。ですので、伊万里市、唐津市、嬉野市、鹿島市、周辺の首長さんたちにも呼びかけてまいりたいと思っております。ですので、武雄だけが栄えてもだめ、やっぱり周辺が、みんな佐賀県が栄えてから、なおさら武雄もちゃんと栄えるというふうにご利用の精神を持ってやってまいりたいと思っております。

ですので、このF&B良品については、もう予想以上で、うちの職員の古賀敬弘初め、よく頑張っていますので、そういった意味で、この職員の頑張りに深く感謝をしたいというふうにも思っております。

長くなりましたけれども、頑張ってます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

このFUN&BUY良品については、やはり武雄市民の所得の向上にもつながるものであります。ぜひ、このネットを通じて武雄の特産品を全国に、また世界に広げていただきたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。

それでは、次に、学校給食の民間委託の改善について質問をさせていただきたいというふうに思います。

これまで学校給食の民間委託が進められてきたんですね。非常に経費削減につながってきているというふうに思っております。しかし、安心・安全あるいは労働条件の低下、こういったものに最近つながってきていないかといったところが非常に危惧をされてきております。

そこでまず、この民間委託の取り組みの状況ですね。平成8年から始まったというふうに思っておりますけれども、この経過、成果等についてまずお示しをいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

学校給食の民間委託につきましては、ただいまおっしゃいましたとおり、旧武雄市におきましては、平成8年から随時行っておりまして、北方、山内の両学校給食センターにつきましても平成22年度から民間委託を行っているということでございます。

民間委託の内容ですけれども、これは調理業務ということで調理業務に限ってお願いをしているというところでございます。旧武雄市の数字で申しわけないんですけれども、旧武雄市、11校、学校がございまして、直営でやった場合は2億円を超える数字になっているというふうに思っておりますけれども、現在、旧武雄市11校では委託料が8,100万円ということになっておりますので、経費の削減効果につきましては1億3,000万円程度ということになっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

経費削減として1億3,000万円ほどの効果を上げていただいているということですね。

そういう状況の中で、この安心・安全あるいは労働条件の低下というふうなところでちょっと見ていきたいんですけれども、これはある学校の給食の状況でありますけれども、直営で以前されていたときの経費、経費といいますか、労務費が4,340万円だったんですね。民間委託になって、そのときの見積もり積算額が、これは経費含めてでありますけれども、2,236万円ということになります。それに対する委託実績が幾らになっているのかといいますと、経費込みで1,575万円なんですね。これからいきますと、直営費で見ていきますと

64%減額になっている。それから、もう1つ、設計額から見ても30%の減になっているんですね。これは、コストダウンを図られるのはいいんですけども、余りにも行き過ぎた数字になっていないかということで、指摘をさせていただきたいというふうに思います。

このように、設計値があって、それより30%減額するということになる、どうしても、この労務費あるいは経費にかかってくるんですね。特に、この学校給食という子どもたちの食の安心・安全といった部分を守っていくためには、やはり、こういったところはある程度歯どめをかけていかないかんというふうに思っております。

こういったところに支障が出てくるかという、例えば今、流行しているノロウイルスですね、嘔吐下痢、こういった感染症、それから、これから恐らくまた流行するであろうインフルエンザですね、こういったものが広がってきたときに、例えば、そこに従事されている皆さんがかかられたり、あるいは家族の皆さんがかかられたりしたときに、そういう余裕がなければローテーションする人材もないというふうなことになる、そういった方たちが現場に入って調理をしたりとかいったことにもなりかねない。そしてまた、経費の面からいくと、例えば、マスクとか手袋とか、そういった経費も交換の頻度をおくらせていく、そういったことにもなりかねないんですね。ですから、ここについては、余りにも私自身行き過ぎているというふうに思っておりますけれども、ここの認識について学校教育としてどのように認識されているのか、お伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

民間に委託をいたしましても、安全面、健康面、こういったものにつきましては十分配慮をしていただくということでやっておるわけですけども、議員御指摘のとおり、私どもの設計額に対しまして、指名競争入札を行った結果、一番安い業者の方と契約するということになりますので、実際には設計額に比べまして30%程度減額をして契約できていると、その結果が先ほど申し上げましたような数字につながっているということで考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘ごもっとも、これは行き過ぎですね。これね、あんまりやると——私はきのう、血の通う行革というのを言いました。これ削減は削減で、これは非常にありがたいことでもあるんですけども、これ削減やると副作用がやっぱり出てくるのが今回の事例で、これは以前、古川盛義議員さんも同じ流れで御質問されたと思うんですよね。ですので、これね、見直します。一番困るのは、これは大人の世界だったらまだいいですよ、まだいい。しかし、これね、ころころ変わることによって、やっぱりせっかくノウハウ、入札するたびにこれは変

わる可能性があるわけですね。そうなってくると、今まで培ったノウハウとかが、そこで一旦まずチャラになってゼロになるわけですよ。ですので、ちょっとね、これは見直したいと思っています。

もちろん、これによって、もう決め打ちしての随契とかって、そんなの考えていませんが、やっぱりここはちょっと行き過ぎなのかなということは古川盛義議員さんの以前の御指摘、あと吉川議員さんの指摘でそのように痛感をしている次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

見直しをしていただくということでおっしゃっていただきましたけれども、ちょっと中身を確認させていただきませうけれども、現在の市内の学校給食の調理の状況について教えていただきたいんですけれども、まず、1日当たりの給食数が幾らなのか、従事者の方が幾らなのかですね。それから、有資格者、それから賃金が幾らなのか、あるいはそのほかの労働条件の実態をどのように把握をなされているのか、学校担当にお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、調理の食数ですけれども、4,258食になっております。それから、市内の16校での従業員の方の数ですけれども、これは77名ということになります。

それから、そのうちに調理師免許を持っておられる有資格者につきましては42名ということで、あと安全面、衛生管理、こういったものにつきましては、私ども仕様書の中でうたっておりますので、それを守っていただくということでやっておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

4,000食以上の給食をつくっていただいているということでもありますので、ぜひよろしくお願いをしたいというふうに思いますし、その中で、ちょっと飛ばしますけど、実情としては、これもある学校の実情でありますけれども、労務費が年間で1,228万円なんですね。給食従事者数が11名、内訳を見ても責任者1人、副責任者1人、常時雇用2人、臨時雇用5人、運転手1人、運転助手1人という構成でやっております。

この学校の分が1日740食、年間190日労働されて、清掃日が20日ということで非常にこの数字を見ていただいても、740食を11名の方でやられている過酷な状況にあります。そして、労務費を見ても、単純に人数で割っても年間所得は100万円程度なんですね。決して高いと

は言えないというふうに思っております。ここの臨時雇用の方とか、常時雇用の方の時給あたりを見ますと、大体600円後半から常時雇用になった人でも700円ぐらいというふうなことで非常に低い、佐賀県の最低賃金が653円ですか、これは10月に改定をなされておりますけれども、最低賃金並みで労働をされておるわけですね。直営でやられていたときのパートさんの時給を見ますと、900円以上支払われているんですね。全くこの民間委託になって市民の所得といったものは逆行している。その点も踏まえて、ぜひ改善をしていただきたいというふうに思っております。

これは先ほどおっしゃっていただきましたね。現在、指名競争入札をされているということでもありますけれども、今後の民間委託のあり方としてでもありますけれども、やはり、この競争入札ですね、これはやはり、低価格競争に走り過ぎる傾向があるんですね。学校給食という性質とか、目的からはやはり、このコストだけで競争させるというやり方は、やはりなじまないというふうに思っております。

そういうことで、あと考えられるのは随意契約ね、これ見積もりとか交渉で決めるやり方、総合評価制度、品質とか労働環境、あるいは安全衛生、価格も含めて総合的に判断するやり方。これは佐賀市あたりが導入をされているようでもありますけれども、これには学校長さんとか、そういう関係者の皆さんに入っていて、3年間の実績等も踏まえて評価をするやり方があります。ぜひ、このコストだけの競争入札ではなくて、随意契約もしくは総合評価制度にぜひ移行をしていただきたいというふうに思っております。ぜひ検討の課題として考えていただきたいというふうに思います。

それともう1点、ぜひ抑えていただきたいのは、コストにも最低制限価格をぜひ設けていただきたい。一般の公共事業、例えば土木とか、建築、これも県の基準85%という最低制限がありますよね。それに倣って、武雄市も最低制限を設けてあります。ぜひ、この学校給食といったものは労務費と経費しかないんですよ。ですから、この価格が今、底なしになってダンピング状態なんです。ぜひ、この底の歯どめをかけていただきたい。

私は、もう設計値があつたら、設計値でもいいと思っているんですよ。ただ、それは余りですからね、やはり90%とか、95%とか、そういうレベルでの競争をさせるといったことが大事じゃないかなというふうに思いますし、もう1点は、委託をする条件として時給の最低条件をぜひ出していただきたい。以前は900円以上払っていたんですよ。福岡県あたりでは、こういうものを設けてありますし、近いところでも江北町は時給800円以上という条件を出して民間と契約をされているというふうに伺っております。

ぜひ、こういったところの歯どめをきかせていただきたいというふうに思っておりますけれども、最後に答弁できますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、総合評価制度にするか、随契にするかは、ちょっとこちらのほうで考えさせてください。これはどっちも一長一短あるんですよ。ですので、それをちょっと現場をもう一回教育委員会とともに見た上で、どちらが武雄市の学校給食の行政にとっていいのかということについては、それは判断は両方させていただきたい。お約束するのは、最低制限価格設定、最低時給条件設定はやります。これをしないと、やっぱり底抜けになっちゃうんですよ。ですので、これが、結局これが子どもたちに響いてくるということになりますので、これについては設定はやります。その中で、一方でやっぱりなるべくこれと、これはちょっとまだ詰め切れていませんけれども、民間の委託契約ですよ。一応期間もやっぱりちょっと考える必要があるだろうということも思っています。期間も考える必要がある。そうしないと、先ほど答弁したように、これがころころころころ変わると、結局、ノウハウの蓄積ができないということにもなりますので、この部分についても柔軟にちょっと考えてまいりたいと思います。

ただ、これで市民の不信感とか、不公平感が出ないように、そこはきちんとガラス張りにする必要があるだろうと思っておりますので、今度、いつ変わるのかな、どこか変わるのかな。（「毎年」と呼ぶ者あり）毎年変わるのか。

ですので、ちょっと最速で今度変わるところから、新しい総合評価制度になるのか、ちょっと随契になるのか考えますけれども、それを適用していきたい。多分、4月以降になると思いますかね。それまでの間は、ちょっと間に合わないかなとは思いますが、それはきちんと詰めた上でやっていきたいと、これについては議会にきちんとまた報告をさせていただきたい、相談をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます。4,300人の将来を担う子どもたちの食の安心・安全ということと、もう1つは額に汗して働く労働者の皆さんの所得を下げない、上げていく取り組みをぜひしていただきたいというふうに思っております。

それでは、次の質問に移りたいと思っております。

次は、選挙事務の効率化というふうなことで、これは1年前の9月議会ですか、御提案をさせていただいておりましたけれども、投票管理のIT化をぜひ進めていただきたいということで申しておりました。

ちょうど今、衆議院選挙の真っただ中で、期日前投票が行われております。そしてまた、16日の日にはいよいよ当日投票ということであるわけでありましてけれども、ぜひ、この投票

所に各コンピューターを持ち込んで、ネットワーク回線によってつなぐことによって一元管理をしていただきたい。投票所の受け付けではバーコード処理によって一括受け付けをして、そうすることによって待ち時間の短縮あるいは二重投票ミスの防止ですね、こういったところに歯どめをかける。そしてまた、夜間作業で今、手作業でやっていただいております統計処理、期日前投票があつているので毎晩、この統計処理をやっていただいておりますけれども、そういったものの大幅な短縮につながるものでありますので、ぜひやっていただきたいというふうに思っております。検討していくというふうなことでありましたけれども、検討状況はどのようになっておるのか、それから、いつからやれるのか、答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えいたします。

選挙のシステムにつきましては、住民基本台帳をもとにした選挙人名簿を使用しております。このことによりまして、杵藤地区広域市町村圏組合の電算センターのほうと協議をいたしまして、また、先進地視察等も行いまして、非常にこのシステム導入につきましては効果があるという判断をいたしました。そのことによりまして、選挙管理委員会のほうに報告、承認をもらっているところでございます。

このことによりまして、平成25年7月、任期を迎える参議院議員の通常選挙から期日前投票システムにつきましては導入を考えていきたいというふうに思っております。

それと、導入効果につきましては、今、そのモニターのほうに3つほど出ております。まさに、その3つ、効果があるというふうに考えております。

まず1つ目は、有権者の待ち時間の短縮ということで、これにつきましてはバーコードを記載した表、入場券を読むことによりまして、受け付け、名簿対照が同時に処理できて、より迅速な対応が可能になるということです。

2つ目につきましては、二重投票の防止でございます。これにつきましては、期日前投票所をオンライン回線で結びまして、名簿対照が同時に処理ができるということで二重投票の防止という形が可能というふうに考えております。

それと、3つ目ですけれども、統計処理時間の短縮、これにつきましては期日前投票後に処理します投票録、各種の統計、これにつきましては、全て自動化されますので、事務従事者の負担が軽減されるという形で考えております。

このようなことで、システムの導入を予定しています。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

期日前投票については、来年の7月の参議院選挙から導入していただくということであり
がとうございます。ぜひ、当日投票も、こういったIT化になるように、また、踏み込んで
対応をお願いしたいというふうに思っております。

それと、2点目でありますけれども、選挙事務の効率化ということで、はがきの件ですね。
これは現在の投票入場券でありますけれども、各有権者にそれぞれ送られてきますけれども、
この表面には世帯番号とか名簿のページ数、行数、それから投票日、投票時間、投票所と書
いてあります。裏には、期日前投票のお知らせ等があるわけでありますけれども、例えば、
一つの世帯に3名の有権者がおられれば、はがきが3枚来るというふうな今の状況でありま
すけれども、これについても、めくり式のはがきにすることによって、はがきが1枚で済む
というふうな形になります。こうすることによって、コストが半減できるということで、こ
のこともについてもお願いをしておりましたけれども、この検討状況について答弁をいただき
たいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えいたします。

現行の投票所の入場券につきましては、有権者1人に対して1枚、単記式という形で今、
送付を行っているところです。

今、御説明がありましたとおり、このはがきを有権者4人までを世帯単位で送付する、い
わゆる連記式という形で変更することによりまして、選挙経費の節減、事務の軽減の効果が
あるというふうに考えております。

このようなことにより、システムと同様、選挙管理委員会のほうに報告、承認をいただ
いているところでございます。平成25年7月、システムと同様、任期満了を迎える参議院議員
の通常選挙より変更をする予定でございます。

それと、入場券の効果につきましては、武雄市の有権者数約4万1,000人を連記式のはが
きで試算いたしますと、選挙1回当たり郵送料として約96万円の経費の削減ができるという
ふうに考えております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ありがとうございます。これも7月から実用化していくということで、選挙管理委員会の

皆さんの御努力に感謝を申し上げたいというふうに思います。

それと今、ちょうど衆議院選挙の真ただ中であるわけでありませけれども、ぜひ、選挙の広報活動をもっと積極的にやってほしいというふうに思っております。投票日等になると、街宣車を回して選挙の呼びかけをされますけれども、それだけじゃなくて、今、武雄市はこのフェイスブックというツールを使った先進自治体でもあるわけでありませるので、ぜひ、毎日、選管のほうから武雄市のフェイスブックページを使って、期日前投票の状況とか、選挙に行こうとか、あるいは若い人たちが行っているところの状況等もお知らせをして、たくさんの人に行っていただくような仕掛けをぜひしていただきたいというふうに思っております。

実は、昨日ちょうどフェイスブックを見ていましたら、ちょうど武雄市役所の玄関のところで、看板の前で若い女性、初めて投票権を手にしたということで、どうやったらいいのかわからないということで期日前投票について、市役所に問い合わせをしたら親切に答えてくれたと。行ったら、いろいろ線も引いてあって、わかりやすくしてあったということで、フェイスブックの中で同じ同世代の大学生の皆さんに、ぜひ選挙に行こうよと、期日前投票があっているよというふうなことでPRをされていったんで、それも私、シェアをさせていただいたんですね。そういうことをすることによって、もっともっと今の若い方たちの投票率低下に歯どめがかかるというふうに思っております。

ぜひ、そういったところの啓蒙活動を率先してやるべきだというふうに思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

末藤選挙管理委員会事務局長

○末藤選挙管理委員会事務局長〔登壇〕

お答えします。

選挙広報につきましては、有権者へ十分な周知を図るために、いろいろな広報手段、こういう媒体を利用いたしまして広報を行っております。

方法としましては、選挙広報と武雄市の選挙広報誌の、（発言する者あり）はい。

武雄市役所のホームのフェイスブックによる広報につきましては、12月4日の公示日にまず情報掲載を行っております。その後は、掲載を特別行っておりませけれども、今後は先ほど議員さんが言われたとおり、投票の仕方とか、それとか今、期日前投票があっております。その投票状況などを掲載することによりまして、投票を促す手段となりますので、積極的に広報を行っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そもそも問題なのは、公職選挙法なんですよ。これね、本当にもう変えなきゃだめですね。橋下大阪市長さんは、もう本当にわかってやられていますし、やっぱり公示の後に、その候補者も我々も一切、名前は書いちゃいけないとか、党派を書いちゃいけないというのは、これはもう倒錯の世界ですよ。ですので、文書とかの配付は公示後、だめじゃないですか。しかし、例えば、名前はあえて挙げませんけれども、いろんな公党、各党も、もう出しているじゃないですか、ホームページとかに。すごいところになると、携帯のQRコードで読めるようになっているじゃないですか。もう完全に公職選挙法、もうあれ明治の文書とか、明治のときの言葉が今、全くもうそぐってないんですよ。ですので、これは選管ももう奥歯に物の挟まるようにしか言い方がないのは、このばかな公職選挙法があるからなんですよ。

ですので、これ変えるように、ぜひ市議会で決議してください。そうしないとね、お金持ちばかりの選挙運動になっちゃいますよ、本当に、お金持ちばかりの。ですので、やっぱり候補者もそうだし、我々もそうだし、やっぱり公示後がもうポイントだと思うんです、公示の後もポイントだと思うので、ぜひ、これは市議会に、もう全国で一番最初に先駆けて、うちはIT特別委員会もありますので、ぜひよろしくお願ひしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

していただくということであります。このフェイスブックとか、ツイッターというツールはお金がかからないんですよ。作業時間はかかりますけれども、経費はかかりませんので、どんどん活用をやっていただきたいというふうに思っております。

それでは、次の質問に移ります。

図書館の充実というふうなことで質問をさせていただきます。9月議会までに、CCCとの指定管理者の協定がなされて、改修予算もつけられて今、工事に入っております。来年の4月にリニューアルオープンを迎えるわけでありましてけれども、非常に楽しみにしております。

その中で、一つ課題として残っているのが、きのうも出てきておりましたけれども、蘭学館があるわけでありましてけれども、蘭学館の今後のあり方について、やはり考えていく必要があるというふうに思っております。まず、この蘭学館の今の状況を、これまでの状況をちよっとお伺いをいたしますけれども、入館者の利用状況等がどのように把握をされているのか、担当部局にお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

蘭学館の入館者の状況でございますけれども、平成12年10月にオープンをいたしまして、当時は一定の入場者がいらっしやったということでもありますけれども、最近は常設展示ということもございまして、なかなか入場者は激減をしているというふう感じております。ただし、正確な数字につきましては、カウンターを設けているわけではございませんので、1日何名とか、何月が何人だったということにつきましては、把握をいたしていないというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

蘭学館の入館者もやっぱりわからないというふうなレベルなんですね。そういう状況の中で、私は10月に入館者のサンプリングをさせていただきました。3日間ほど、いつもは行けませんので、10回ほどちょっと行かせていただいたんですけれども、入館者10回行ってゼロであります。

すなわち、ここの蘭学館の稼働率ゼロとまでは言いませんけれども、非常に低過ぎる。もう数%程度しかないというふうに思うわけですね。ぜひ、やはり、この12年間、私が行く限りで、12年前オープンしたときと今とほとんど中身変わっていないですよ。やはり、そういったところの見せ方とかいったものも、もっともっとリニューアルをかけていかないと、やはり、入館者はふえないですよ。

そういったところで、ぜひ、この見直しをかけていく必要があるというふうに思っております。まず、ちょっと現状についてお伺いいたしますけれども、この蘭学館のリニューアル等を12年間でやられたのかどうか、お伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

蘭学館の展示につきましては基本、常設展示ということでございますので、大幅な入れかえについてはあっておりません。ただ、やっておりますのが、蘭学館の入り口から入って右側に壁面ですね、ミニ企画展のコーナーがございます。このコーナーを年に2回ないし、多いときで5回ぐらい展示会をやっているということでございますけれども、大部分は変わっていないというのが現状でございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

ほとんど変わっていないということですね。この武雄の蘭学については、この資料、非常に大切なものだというふうに思っております。これも多く市民に知らせて活用を図るべきだ

ということは十分に認識をしておるわけでありませう。

そういった意味から、やはりきのうも話があつておりましたね。図書館については改修予算がついているけど、蘭学館については予算がついていないと、確かにそうなんです。ですから、ぜひ、この蘭学館についてもコンセプトをやはり明らかにしてほしいんですよ。図書館については、CCCのコンセプトがはっきり明確になりましたので、それに対して予算づけをしたんですよ。この蘭学館についても、じゃあ、これからどのような形に持っていくのかですね、そのコンセプトを明らかにして、ぜひ、私は予算つけていいと思うんですよ。予算つけて、もっともっと市民に親しまれる蘭学にしていくべきだというふうに思っております。

そういったことで、今後この蘭学館、大幅にやはりハード面、ソフト面含めて見直しをかけていく時期にもう来ていると思いますので、その辺の打ち手、どのようにされるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとモニターを交換してほしいんですけども、（モニター使用）答弁に入ります前に、古賀部長もかわいそうなんです。私も何回かこれリニューアルすべきだということを蘭学館は何度も言ってきました。市長に就任させていただいた以降、私もこの重要性というのはよくわかりますので、それは何度も言ったんですけど、まず、僕が最初に入ったとき愕然としたのは、蘭学館に入ったときにもう真っ黒な壁があるじゃないですか、あんなところ入ろうと思わないですよ、そもそも論。

そして、電子掲示板でもう張つてあるじゃないですか、張つてあるのにリニューアルなんて基本的には無理なんです。だから、それは企画展示室のあのすばらしさを考えた場合に、あそこは自由にできるじゃないですか。例えば、文化財も展示ができる、あるいはターナーさんの、あれまでやりましたからね。ですので、できるんですけど、そもそもあの蘭学館は、設計のミスです、失敗です。うん。何であんなのに予算をつけたのかなというふうに思うんですよ。だから、吉川議員が話されたように、実際、来訪者はゼロですもんね。

私も自分でサンプリングやったことがあります。そのときは土日辛うじて、子どもたちが中に入って何をしているかということ、休憩していました。だから、そうはあっちゃいけない。その結果がこのアンケートなんです。やっぱり蘭学館、あそこの中の蘭学館によく行かれますかというアンケートで、余り行かないと、行ったことがないを合わせると65%になっちゃうわけですよ。ですので、今後どうしようかということ考えたときに、我々とすれば、最終的にはこういう蘭学館をつくっていきたいと思っております。

これは、今ある既存のもので我々がこれいいなと思つているものなんですけれども、明る

い光を入れながら、そして、スペースはきっちり調光も考えながらやっていくと、こういう感じになればいいなということを思っていて、じゃあ、これをどこにつくるかといったのは、以前私が申し上げたとおり、この庁舎の今、検討しております、3パターンありますよね。今の庁舎に耐震設計を施す、あるいは、今の庁舎にもう一回建て直す、そしてまた、どこかに場所を見つけて、そこで建て直すという、この3パターンがあって、その中のいずれでも蘭学館機能というのをきちんと入れたものを私はつくりたいと思っています。ですので、今のままだと、どんなにリニューアルしても、やっぱりだめなんですよ。

ですので、じゃ今の蘭学館をどういうふうにするかという、我々はここをこういうふうに使いたい。CD、DVDを、これはもう図書館の延長として、これは歴史的財産でありますので、これを使って、ここにいろんな人たちを呼び込むと。こういうCDとかDVDを置く分には、あの蘭学館というのは非常に適しているんですね。防音効果もある、あるいは入ったときに、ここは音楽を仮に流したにしても外には漏れないんですよ。ですので、図書館に行く層と、こちらの映像あるいは音楽の層を分けて考えられるということでありまして。図書館も本だけじゃありません。やっぱり我々とすれば、すぐれた映像であるとか、すぐれた音楽も一緒に出していく、これも文化であります。これをCCCのお力をかりて、CCCの予算でここを改修して、ここにもお越しいただくということで、結果的に図書館の魅力が、総合図書館としての魅力が私は増すというふうに理解をしております。

入ったときの感じはこういう感じですね。奥には映像を流します。できれば、ここで映写会でもできればいいなということも思っています。

じゃあ、今の蘭学館に置いているものをどうするかということについては、横の企画展示室を、ここを常設展にします、常設の置場。そして、過渡的な措置として、先ほど申し上げたように、新しい今の時代に合う蘭学館の前に、これは時間がかかります。時間がかかりますので、その間はそれをほかすんではなくて、今の蘭学館、企画展示室に、今、蘭学館に置いてある財産、市民的な財産なるものをこちらのほうに置いて、例えば特別展、特別展というのは、また別個設けるということにして、常設をこっちに置きたいというふうに思います。ですので、明るいところで、きちんと今まであった資料を置くと、そして、あんな暗いところでなんか見れないですよ。ですので、ここちょっと明かりを明るくして——ただし、ここで考えなきゃいけないのは、やっぱり展示と保存というのはきちんと分けて考える必要があるんですよ。鍋島の古文書、非常に重要です。重要ですので、これはしっかり保存をすることは絶対に大事です。これはちゃんとやります。

それと、もう1つ大事なものは、展示です、展示。これは先ほど繰り返し申し上げますけれども、これは展示に切れ目があっちゃいけませんので、企画展示室できちんと展示をさせていただきます。一方で、先ほど申し上げたとおり、今度、庁舎の今、検討を議会の皆さん、そして、市民の皆さん方にもしていただいておりますけれども、その中に新蘭学館をつくりた

いと、そのエリアの中につくりたいということで、5年、10年、今の子どもたちが大人になったときに、ああ武雄市にはこんな財産があるんだと、文化的な資産があるんだということを含めて、我々大人世代はここでやっぱり考える必要があるだろうと思っています。

ですので、私は今までの武雄市の文化、歴史行政を否定するつもりは全くありません。全くない。今まで大事に先人の皆さんたちが育まれたもの、特に石井元市長さんは、本当にこれ、私も何度も話ししましたけれども、生前本当に話されていました。その流れをくんで、我々としては、より多くの皆さんたちに、もっと親しんでいただくということにすれば、そこはやっぱり今の時代の観点を僕は取り入れるべきだと思っていますので、私も武雄の文化、歴史大好きだし、今、着任当時から、もう石井さんから言われていますので学んでいます。これは絶対に後世に保存をしなければいけないということ。それと、これをもっと今以上に広く見せなきゃいけないという観点から、これは教育委員会と協議をして、今の段階にしていきたいというように思っております。

これはもとより、市民的な議論が必要だと思っていますので、ぜひ、また御意見を承ればありがたいと、このように思っております。この部分の予算については、先ほど吉川議員もおっしゃったとおり、これはお認めいただきたいと思っています。企画展示室も場合によってはお金が入ることにもなりますので、これはぜひお認めいただきたいなと思っていますし、長くなりましたけれども、今のままのリニューアルよりは、こちらの過渡期的な措置として企画展示室を使って、将来的には市役所の中に入れるというふうにすると、それと保存を、アーカイブをしっかりとすることを我々としては今、考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

大体のコンセプトがわかってきました。この武雄の蘭学、非常に重要なものでありますので、図書館と同じレベルで考えていただいて、今後、武雄の貴重な財産として活用をしていただきたいというふうに思っております。

先日、沖縄市のほうに行っただけですけど、あそこの庁舎1階のところは市民ホールになっているんですけど、非常に広いんですね。そこの市民ホールにいろんな特産とか、こういった歴史的なものを置いてありました。たくさんの市民がそこに来られますので、非常に目にとまるといったことからすれば、市民ホール等の横に、そういうところを設置する。そういうやり方も非常にいいのではないかなというふうに思っております。ぜひ、図書館とあわせて、また蘭学も見直しをしていただきますようお願いをしておきたいというふうに思います。

それでは、最後になりますけれども、保育所の民営化でございます。保育所の民営化については、平成11年ぐらいから構想を立てられて、いろいろ協議がなされ、ようやく平成17年

ぐらいに、この民営化がスタートしたのではないかなというふうに思っておりますけれども、これまでの民営化の経過と、それから、成果はどのように上がっているのか、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

保育所の民営化の経過ということでございますけれども、公立保育所の役割及び管理運営に関する計画に基づきまして、公立保育所6園のうち5園を民営化してまいりました。平成17年度には、東川登保育所と西川登保育所を民営化いたしまして、平成19年度に統合をされまして、川登保育園となっております。また、平成20年度には若木保育所を民営化いたしまして、現在の若木保育園となっております。また、同じく20年度に朝日保育所と朝日第二保育所を民営化いたしております。そして、平成21年度に統合されまして、現在のあさひ保育園となっております。そして、残る公立保育所の1園であります武雄保育所につきましては、武雄保育所の役割及び管理運営に関する計画書を策定したところでございます。そして、26年度に民営化をするという予定にしております。

また、その効果と申しますか、成果ということでもありますけれども、その中で、経費削減の効果といたしましては、民営化いたしました5園を全部合わせますと、単年度で7,000万円となります。また、武雄保育所、今回の武雄保育所を民営化いたしますと、その削減効果といたしまして4,600万円が加わるということになりまして、単年度では1億1,600万円の削減効果、経費の効果が出てまいります。また、これを17年度からの累積で積み上げてみますと約2億8,000万円の削減効果となります。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

今、これまでの経過と成果について答弁をいただきましたけれども、約7,000万円の効果が出ていますと、6カ園中5カ園を民営化した段階でですね。今度、武雄保育所を26年から民営化すれば、1億1,000万円ですか、効果が上がるというふうなことでありました。

今後の計画について、先ほど26年民営化というふうなことで運用をスタートするというものでありますけれども、もうちょっと詳細に説明できればお伺いをしたいと思いますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

今後のスケジュールということになるかと思っておりますけれども、今後の武雄保育所の民営化

のスケジュールといたしましては、平成25年2月から3月に運営事業者の公募をいたしたいというふうに思っております。

そして、4月から5月に検討委員会を設置いたしまして、運営事業者の決定をしてまいり、そして、26年4月から運営事業者による事業開始措置というふうに考えております。そして、さらにですけれども、平成27年度中には現在の園舎が老朽化しておりますので、園舎の新築移転というふうなスケジュールで進めていく予定としております。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

わかりました。その中で、27年に新築移転をするということでもありますけれども、武雄保育所に通われる父兄さんからもお話があったのは、やはりこの交通アクセスをもっとよくしてほしいと、新築移転をするときにはですね。やはり、この武雄のまちのポテンシャルの一番高いところに持っていくべきだというふうに思うんですね。

この写真は、あさひ保育園でありますけれども、拡幅された市道、そして、拡幅された歩道があって、その先には駐車場がある、駐車場の奥に園舎があるというふうなことで、この保育園の送迎についても、ほとんどの方がもう自動車でお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが送迎をされている実態があります。ですから、そういったものも踏まえて、このポテンシャルの高いところに、そしてまた、気候とか季節とか、そういったものに左右されないようなところですね。例えば、雨季につかってしまうとか、冬場になれば凍結するとか、あるいは雪が積もって行けないとか、そういうところではなくて、武雄のまちの一番ポテンシャルの高いところに移転をして、新しくつくって運営をしていくべきだというふうに思いますけれども、その点についてはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

議員さん、今、御指摘いただきましたように、現在の武雄保育所は非常に進入路が狭くて、一方通行ということもありまして、保護者の皆さんに大変御不便をおかけしております。

今後、民営化を進めるに当たりまして、新築移転を予定しているわけですがけれども、本当に、その交通の利便性のよい場所に開設をしたいというふうに考えております。

校区内につきましては、武雄小学校ということもございます。本当にポテンシャルの高いところということで、今からそれを探していくこととなります。どうぞ御協力もお願いしたいというふうに思うところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

12番吉川議員

○12番（吉川里己君）〔登壇〕

以上で一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で12番吉川議員の質問を終了させていただきます。

ここでモニター準備のため、10分程度休憩をさせていただきます。

休	憩	10時10分
再	開	10時19分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、14番末藤議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

議長から登壇の許可をいただきましたので、14番末藤正幸の一般質問を始めたいと思います。モニターをお願いします。

（全般モニター使用）私の今回の質問は、1番、市政について、2番、教育関係について、3番、道路関係についてを質問したいと思います。

それでは、早速通告順に従いまして、質問をさせていただきます。

まず、1番目に被災地支援についてのお尋ねでございます。

きょうで東日本大震災が発生して1年と9カ月たちました。そんな中で、被災地の皆さんは寒い仮設ハウスの中で2回目の正月を迎えようとされておるわけでございます。この前のテレビだったかと思いますが、被災地の方のインタビューがあっておりましたが、被災地の方いわく、この震災を全国の皆さんは忘れないでほしい。また、この被災地へ足を運んでほしい、来てほしいという切実な（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

少し静かに。

○14番（末藤正幸君）（続）

声を出しておられました。

そんな中で、武雄市といたしましても、ことしもいろんな被災地支援を行っていただいたわけでございますが、ちょっとモニターを映します。これは、この前の7月23日、東川登小学校キッズボランティアということの出発式の写真でございます。これは、仙台市立の六郷小学校と交流をされて、いろんな経験をされて帰ってこられました。

次に、これは、チーム武雄ボランティアですね。公募により陸前高田市に支援に行つてこられました。陸前高田市で開催された全国太鼓フェスティバルという大会の中の運営を支援されたということでございます。そういうことで、いろんな支援に取り組んでいただきまし

た。

また、職員も2名の方が向こうに派遣をされております。そういうようなことで、これは本当に継続して支援をしていく必要があるだろうと思うわけでございますが、今後、被災地支援についてどのように取り組んでおられるのか、また、これに対する原資といたしましうか、資金はどのように計画をされているのか、まずお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

モニターをかえてほしいんですけれども、（モニター使用）ちょっとダブる部分があるかもしれないけれども、このように我々は単に1回行ったではなくして、こういう支援交流の皆さんとの再会であります。これは陸前高田なんですけれども、この中で、やっぱり驚くべきなのは、80歳になられた中山さんがいらっしゃるということなんです。ですので、こういう世代を超えて——ちょっと言い方はどうか知りませんが、立場を超えて、このように参加をしてくださるといことは非常にありがたく思っています。

ことは、もう、何て言うんですかね、末藤議員さんも行われましたけれども、瓦れきの撤去とかという作業は一段落をして、陸前高田市長と話をしたときに、ぜひこの太鼓フェスティバルを盛り上げてほしいということでありましたので、地元のニーズを踏まえて太鼓フェスティバルの支援に、市民の皆さん、そして職員が伺ったところでもあります。

あるいは、先ほどありましたように、東川登小学校が、これは中心になってはいますが、実際現地に行って、同世代の子たちと交流を深めるということは、これは非常に大事だということで行って、これは東川登小学校の皆さんたちから、私も報告を承ったところでもあります。

あと、うち、職員が2人、1年間出しております。以前の秘書官でありました古賀龍一郎が陸前高田市に派遣職員として、先方のフェイスブック化であるとか、広報であるとか、もう市長の右腕になっていて、非常に心強く思っております。多くのものを、また武雄市に持ち帰ってくれるものと期待をしております。

そして、今度、市長の左腕になっておる上田哲也でございます。彼はサガテレビでも出ましたけれども、商工観光課で、彼は人柄で勝負をしているようです。ですので、非常に武雄市は陸前高田を初めとして、本当に評価が高い状況になっているようで、以前、たまたま武雄温泉駅に私がいたら、ちょっとこれは存じ上げていない市民の方から、仙台に行ってきたと、仙台に行って、そこの地元の松島だったかな、どこから来られましたかと聞かれたときに、武雄から来ましたと、どうせ武雄市で知られとらんもんねと思って聞いたら、あの我々の被災地支援というか、我々の被災地に一生懸命取り組んでおられるところですねということで、それは我々も言われますよ、行けば。言われますが、そういう一般の市民の方が、

そういうふうに自分が観光で行って、その東北の地でそのように言われて、非常に誇らしく思いましたということ言われて、ぜひ市民の方からも、被災地支援は今まで以上に続けてくださいということ、市民から私は伝えられました。

これ、非常に実は心強くうれしく思っていて、やっぱり武雄市民はすごいなと思いましたよ。普通はね、もうそこまでせんでもよかろうもんでありますよ、あがん遠かところ。しかし、やっぱり我々の市民の気持ち、議会の気持ちが、やっぱり伝わっていると。これはね、婦人会も一生懸命しよんさっですよ。一生懸命しよんさっ。ですので、我々市民だけじゃなくて、そういう各種団体ですね、商工会議所とか商工会とか、もう一生懸命されていますので、これを閉ざすことなくやっていきたいと思っていて、具体的には、あちらの、被災地のニーズに即したことをやっていこうと思っています。

例えば、チーム武雄による市民ボランティアや児童・生徒の派遣、あと、修学旅行も考えたいですね、修学旅行も。まだね、京都とか大阪とか行かんでよかですよ。もう京都のお寺は、我々大人になってからで十分です。ですので、それよりも実際被災地に行き、やっぱり交流をしたり、こう感じる。これね、東川登小学校の生徒諸君の話聞いて、もう痛切に思いました。ですので、足りんぎ、やっぱり議会に協力をお願いして、これは出そうということも思っていますので、ぜひ、武雄高校はね、あそこはもうお勉強学校やけんが、もうよかけんですよ、中学校、小学校はちょっと厳しいかもしれせんけれども、ぜひ中学校、市内の中学校の市立中学校の先生たち、校長先生にはぜひ御理解をしていただきたいなと思っています。

そして、福島、昨年行いましたけれども、被災地から子どもたちを受け入れるキッズタウンステイをやっていきたいと思っていて、この職員の継続については、陸前高田から要請が来ております。要請が来ておりますので、これは積極的に応じてまいりたいと思っております。ですが、非常に厳しい環境なんですね。これは2人から、上田、あるいは古賀から聞いても非常に厳しい環境でもありますので、これはよく相談をしてまいりたいというふうには思っております。ただ、その中でもやっぱり行きたいという人間が出てきているということについては、これも非常にうれしく思っておりますので、そういった気持ちも大事にしたいなと、このように思っております。

最後になりますけど、継続をして我々ができることを最大限行っていくということが、我々の被災地支援に対する基本的な姿勢であります。

○議長（杉原豊喜君）

経費はよかですかね、経費。樋渡市長

○樋渡市長（続）

議長さん、すみません。今、経費については、寄附金が、例えば、被災が起きた22年は、寄附金が473万円集まりました。そして、支援事業費として126万円組みました。23年度は

411万円寄附金が集まって、支援事業費で926万円組んでおります。そして、現在なんですけれども、寄附金が15万円になっていて、支援事業費は402万円ということで、計、寄附金が900万円集まっていて、支援事業費に1,456万円支弁をさせていただいているところであります。こいでよかですかね。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

どうもありがとうございます。いろんな説明をしていただきまして、本当に現地に足を運んでいただき、そういう支援を行っているということで、ありがたく思っております。

そしてまた、今、2名の職員の派遣、本当に現地で頑張っておられるようでございますが、この職員の派遣というのをどこまで続けていかれるのか、その辺をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと難しいんですけど、これを永続してというのは、ちょっとうちも小規模自治体が無理なんで、少なくとも3年間はやっていきなというふうに思います。やっぱり蓄積というのも大事なんですよ。2年だとなかなか蓄積ができませんので、3年かなと思っています。

それと、あと考えたいのは、1年というのはやっぱり長いんですよ。いろんな自治体からしても、1年は我々だけなんです。長いところで大体半年です。ですので、そういったことも、ちょっとやっぱり柔軟に考えていかなきゃいけないということを思っています。石の上にも3年と思っています。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当に職員の方、向こうで、現地でなれないところで本当に頑張っていております。そういうことで、本当に1年間というのは長くて大変かと思いますが、3年というふうなことでございますので、（発言する者あり）いやいや、半年でも交代をしていただきながら、計画をしていただければというふうに思います。本当にこの被災地支援というのは、とても大切なことであり、本当に復興の一助となるものでございますので、今、市長が申されたとおり、継続して支援をお願いしたいと思っております。

それでは、次の質問に移ります。

次に、リフォーム事業ですね。

この事業というのは、住宅リフォーム緊急助成事業補助金というようなことで、3カ年計

画の事業でございます。まず、この基本助成というのが補助対象工事費50万円以上の15%を助成、最高限度額は20万円というようなことでなっております。23年度から3カ年ということでございますので、もう24年、そして来年の25年までという計画でございますが、非常にこの事業は人気がありまして、申し込みも多いと聞いております。

そしてまた、町の職人さんも非常に少なくといひましようか、忙しくなって、さっと言うて、すぐ来らっさんとか、そういう状況というふう聞いております。

この事業の現在の利用状況、それと、もう25年前倒しで24年に結構事業費も使ったということでございますが、来年度はどのような取り組みになっているのか、その2点、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

リフォーム事業でございます。これは、県費を使った経済対策でございまして、武雄市としては上積み補助はしていないということでございます。

全体額を申し上げますと、平成23年度7億円、24年度10億円、25年度は3億円という展開でスタートいたしました。余りにも好評でございまして、今年度10億円が追加されております。さらに、前倒し等を行いまして、結果的には23年度は7億円、24年度は20億円、25年度は3億円という、計30億円の事業展開となっております。

武雄市における効果でございます。23年度では、216件の4,300万円の実績となっており、今年度の予定額といたしましては、1億2,500万円、645戸を想定いたしております。なお、11月末現在において、572件の申請でございまして、進捗率といたしましては、89%となっております。

また、経済効果といたしましては、大体補助額の10倍程度が見込まれておるところでございます。

また、さらに、来年度の予定でございます。この3億円でございます。武雄市の配分予定は約2,000万円ということで、100件程度を予定しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

もう来年度は100件程度ということでございますが、非常に人気がありますし、経済対策にも非常になっておるようでございますので、これは要望して、もう少し来年度上乘せというのは、まだわかっておりませんか。それとも、もうこれでぴしゃっと打ち切りでございますか、ちょっとお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

さらに要望ということでございますが、今年度、その要望を受けて10億円を積み増したということで、県といたしましては、これ以上の支出はできないということを聞いております。したがって、30億円で打ちどめになるということになると思います。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。

それでは、次の太陽光発電の質問をいたします。

福島第一原発の地震津波による事故発生後、市民の方の自然エネルギーによる発電の意識が高まり、また、国の制度等も改正されまして、太陽光発電のパネルの設置が目立って多くなったことは事実でございます。この住宅用太陽光パネルシステムの設置状況の写真でございます。これが市のほうからいただいた資料を表にしたものでございますが、太陽光発電システム設置補助金の推移ということで、平成24年11月30日現在であらわしております。平成21年が補助件数73件、22年が168件、23年が263件、平成24年が、11月30日現在で189件、現在ではこれが199件の申し込みになっているという報告でございました。それで合計の、11月30日現在の合計で703件、補助総額が21年度から合わせて6,409万1,000円というデータをいただいたわけですが、これ、非常に人気があって、今度12月にも40件分の補正も提案をされているところでございます。

この補助事業ですね、今年度240件になるわけですが、非常に人気が高いわけで、まだまだふえる可能性もあるわけですが、来年度はどのように考えておられるか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

来年度はわかりません。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

来年度はまだわからないということでございますが、国、県の補助金というのは、ずっと残っていくのか、それともそれもわからないのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、ちょっと環境省に確認をしたんですが、政権交代の影響等があつて、ちょっとそこはわからないんですよ。基本的に県も我々も、これは国の政策としてやっぱりやっていかなきゃいけないという側面、100%じゃないですけど、ありますので、そこはちょっと国の動向を見たいと思っています。変わることは、もう确实、余り言うとはストップするかな、思いますので、そういうふうには思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

非常に人気がある事業ですので、ぜひそういうふうな補助金も加勢をしていただいて、武雄市の電力の地産地消を進めていただきたいと思います。

それでは、次に移ります。

市政についての最後の質問でございますが、市営住宅についてお尋ねをいたします。

市営住宅の建てかえ、どのような計画で進められておられるのか、お尋ねをします。今現在、和田住宅は建設中でございますが、今後どのようになるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

市営住宅の建てかえでございます。

現在、和田住宅を建てかえておりまして、今度の2期で終わりますけど、この工事が25年度で完成する予定でございます。

その後の予定でございますが、現在のところ大野住宅について予定しておりまして、26年度以降ということになるかと思っております。まだ計画段階であるために、居住者についての説明は行っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、建設中の和田住宅は25年度完成ということでございますが、ここに今、次にというようなことと言われました大野住宅、これ山内町の大野地区にありますけど、大野住宅の写真でございますが、まだ今、計画というようなことと言われましたが、この大野住宅について、やはり土地も狭いし、ちょっと入り口も狭いということもあります。ただ、私どもが一番期待しているのは、これが山内町に対しての定住策といいまじょうか、なかなか山内町も人口が減っているわけでございます。そういうようなことで、住宅建てかえのときに、戸数でもふえれば、幾らかでも住宅はふえるのかなというような期待もしているわけでございますが、

この住宅の計画の概要、幾分わかっておれば説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

現時点においては、まだ明確になっておりませんが、大野住宅の周辺を見てみますと、低層住宅が並んでおります。したがって、高層化は無理だなというふうに判断しております。

また、敷地面積がそんなに広くございません。したがって、基本的には現状の戸数16戸を考えていますが、敷地の関係上、高層化できないということと、敷地の面積等の関係から、あるいは駐車場の整備等入れますと、今の時点では明確な答え、はっきりとした計画については申し上げることはできません。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。できれば、それは確かに戸数をふやしていただければと思いますが、そういう敷地の要件とかいろいろありますので、それは検討課題としてよろしく願いをいたします。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

次に、教育関係の質問でございますが、まず学校給食についてでございます。

質問は、まず給食の残菜——残飯といいますかね、それについてお尋ねをしたいと思っております。

学校給食、これは完食が一番いいわけでございますが、病気で欠席されたり、いろんな理由で、やはり残菜も残るわけでございますが、武雄市内での残菜の量、これは幾らぐらい、今、大体発生しているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

武雄市では、平成24年の3月、ことしの3月ですが、第2次武雄市食育推進計画という、こういう計画を策定いたしておるわけですけれども、この中で御指摘の学校給食の残菜量につきまして目標を立てております。これが、目標年次が平成27年ということでございますが、1人一日当たりということで、5グラムに設定をいたしております。この計画をつくりました当初は、小・中学校平均いたしますと7.7グラムということでございましたけれども、これを小学校と中学校に分けて申し上げますと、小学校で6.1グラム、中学校で11.5グラムと

いうことをごさいますけれども、小学校では、平成23年度において既に5グラムということになりまして、目標を達成しているという状況でございます。

また、中学校におきまして、7グラムということになっておりまして、目標数値に近づいているというのが状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

これは山内東小学校の5校時目の給食風景というようなことで、許可をいただいて写真を撮ってきたわけでございますが、本当にこういう状況だと残菜は残らないだろうなというぐらいに、子どもたちも喜んで食べておられました。そういう中で、やはり残菜はこういうふうにあるんだなということだと思ったわけでございますが、平成22年度からすると、23年はそういうふう減ってきたということでございます。

そういうふう目標に近づいてきたわけでございますけれども、この減らす努力というんですかね、残菜をなくす努力というのは、どういうところでそういう取り組みをされているのか。先生たちの取り組み、調理の仕方の取り組み、味つけ等いろいろあると思いますが、どういうところを努力して目標達成といえましょうか、そういうふうに進んでおられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

5校時の給食風景ということで写真を出していただいております。御存じのとおり、正規の時間数じゃないわけでありましてけれども、5校時給食ということで、誰でも給食、食育を意識して取り組もうという中で、先ほどの残菜量の減少にもなっているところでございます。特に、やはりありがたいことに自校給食という形をしてもらっておりますので、生産者の方も知っていたり、あるいは調理をしていただく方も知っていたり、つくっていただくことも見られるというようなこと、そういう感謝の心を片方にながら、実際には温かいものが食べられるというようなことで残菜が減ってきているというふうに思っております。

ただ、やっぱり経過を見ますと、小学校のときに残菜が多かった場合は、成長して今の中学生でも、若干その学校によって違いがあるわけですね。ですから、そういう意味では、やはり小さいときからそういう形ですっかり食育をしていくということの大事さを感じておるというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

残菜が残っているのは現実でございますが、この残菜の処分はどのようにされているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

処分でございますけれども、基本、生ごみとして出しているという実情でございます、一部では生ごみの堆肥化ということも取り扱っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

堆肥化も取り組んでいるということでございますが、やはり燃えるごみ処分ではなく、飼料とか、そういうふうな堆肥化、そういうこともぜひ取り組んでいただいて、教育の一環として利用していただければというふうに思います。自治体ではいろいろ調べてみますと、生ごみ等で処分されているところも結構あるようでございますが、量的に少ない部分は、そういうふうな堆肥化というのがベストじゃないかなというふうに思うわけでございます。

それと、あと1つお尋ねでございますが、山内町の小・中学校、26年4月から自校方式をとっていただくということで、また残菜の量も減ってくるのではないかなというふうに思うわけでございますが、山内町内には3校の分校があるわけでございますが、自校方式になってくると、今はセンター方式で車を使って配達といいましょうか、配送をされておりますが、自校方式になっても、分校まで給食室をつくるというわけにはいかないと思いますが、その配送はどのようにされるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御指摘のとおり、分校まで自校方式というのは非常に難しゅうございますので、分校につきましては、本校で調理した後に配送車で配送していくという体制をとってまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。

次に、教育関係の2番目、安全・安心についてお尋ねをしたいと思っております。

これは、三間坂のJR線の側道線といいます市道でございますが、これが中学校、小学校の通学路になっているわけでございます。これも以前、危険箇所調査の中で、この側道に白

線を引いてください、路側帯のところの両側に白線を引いてくださいということで、歩く場所、それと車が通る場所、そういうふうなところを仕分けしてくれというような意味で白線を引いてくださいという要望があっておりまして、私も一般質問で一遍取り上げたこともあると思います。この道路、なかなか白線が引けていないわけですが、ここの道路には白線は引けないわけでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

通学路の安全確認につきましては、道路事情等ございますので、私ども教育委員会、それから学校、それから保護者の方、建設課、土木事務所等々の御協力をいただきまして、安全確認を毎年させていただいておるところでございます。その結果、道路管理者に要望すべき部分につきましては要望いたしておりますけれども、ここ、まだやっぱり優先順位等々もあるというふうに思いますので、危険な場所につきましては、管理者にまず要望していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

白線ですよ。

〔14番「白線」〕

白線ですよ。

〔14番「路側帯の白線」〕

ここですよ。白線引きます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

それでは、ぜひお願いしたいと思います。

もう1つ、すみません。これは、山内東小学校の校門の前の歩道の状況でございます。以前は校舎の中にあつたセンダンの木というのですかね、これ、大木でございますが、今度、工事をされまして歩道をつけていただきました。それで、この大木が歩道のところのちょうど中心のところの位置になって、非常に通行の妨げになって、せっかく歩道できたのに通行の妨げになっている、そしてまた、見通しもききにくいわけですが、この木も学校の先生等にもお聞きはしましたけど、非常に大きな木だからというようなことで残したということをお聞きしました。この木は、やはり倒せないんでしょうか、伐採できないんでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それを私たちに言われてもですね。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

どうでしょうか。よければ、ぜひ伐採していただきたいと。それは学校等とも相談されると思いますが、なかなかこれが、何でこう出したかという、誰でも答え出し得んわけですね。それで、きょう、ここに出して、皆さんこれをモニター見ていただいた方に、どちらがいいのか判断をしてもらおうかなということを出しました。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、この状態で切ったら、また独裁とかワンマンとか言われますよ。だから、これこそ地元でまとめていただくのが、議員の僕は役割だと思っていますので、それはちょっと地元で、どういうまとめ方があるかというのはいろいろあるとは思いますが、ですので、ちょっとまとめてね、でね、やっぱりこれ聞いたほうがいいのは、あれなんです、実際、ここ本当に使ってくださっている子どもたちと、その地域住民の皆さんたちなんです。確かに僕もここをたまに走りますけど、ただ狭いだけじゃなくて見通しがね、これで遮られているというのは、僕もここは何回か通って、そこは僕も痛感していますので、気にならないように地元でまとめてほしいなど、こう思います。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

わかりました。そういうことで質問を上げました。

次の質問でございます。

これは、11月23日の佐賀新聞の記事でございます。これ、いじめ緊急調査の結果の記事ですね。「いじめ半年で14万件超 11年度の2倍に急増」と、これは調査のやり方とかいろんなことで、こういうふうになったというようなことですが、赤い部分を読みますと、「昨年10月に大津市の中2男子が自殺し、その後、大津市の教育委員会のずさんな調査実態が問題化。文部科学省は今年8月1日、すべての国公私立の小中高などに、今年4月～9月に把握したいじめの件数を調査するように通知した。」というのが、いじめ緊急調査でございます。

その記事でございますが、質問でございます。武雄市内の小・中学校でのこの調査というのは、どのような報告をされたのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

武雄市でのこれまでの調査では、報告したのは1件でございます。ただ、これまでの質問にもありましたように、どこからという境目のないのが実際のいじめの実態でございます、そこは十分注意をしているところでございます。

地域格差という言葉がここにあるわけでありましてけれども、統計上の地域格差はあっても、実際のいじめ自体には、そういう格差というのはそうはないだろうというふうに思うわけでありまして、そのあたりは、こちらも注意して指導をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、1件ということでございますが、本当に少なくて何よりでございますが、今、教育長も少し触れていただきましたが、その日の次、第2面にですね、11月23日の佐賀新聞第2面のここに書いております「ばらつき」というようなタイトルの中の、「県教委は今回の調査に当たりアンケートの見直しに着手」云々と書いてあります。「ただ、件数は昨年度1年間の78倍にもなり「これはいじめではないのでは、という内容もあるかもしれない」と明かす。1,000人当たりの件数が1.3件で、福岡県に次いで2番目に少ない佐賀県教委。従来通り、学校で教員数人が協議していじめと判断した場合だけ報告したといい、担当者は「精査した結果。やり方を変える予定はない」。大きすぎる把握件数のばらつきに、積極的な報告を求めていた文部科学省でさえ「異常状態。調査の信頼性に関わる」（幹部）と戸惑いを見せる。」という記事になっておりましたが、このことについて、教育長はどのようにお考えなのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大なり小なり、いじめは経験してきているわけでありましてけれども、特に生命とか身体にかかわるような重大な事案というのは非常に心配するわけでございます。そういう意味では、別の調査では、小学校62件、中学校170件、高校41件というような、重大ないじめというような対応もされているところもあるわけでありまして。

ただ、問題は、やはりそれをいかに早く察知して対応できるかというところだというふうに思っておりますので、そのあたりを指導しているというところでございます。この数値の

極端な違いについては、文部科学省のほうでも検討されるということが出されておりますので、いずれそんなに違いのない正式な、正確なというのは非常に難しいかわかりませんが、調査の方法等も考えていかなければいけないだろうと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、あれですかね、このいじめ緊急調査はあれでしたっけ、学校の教職員に聞いているでしたっけ。

〔14番「そうです」〕

子どもたちに聞いている……

〔14番「じゃなく」〕

こんな調査なんかだめですよ。わかるわけじゃないじゃないですか、そんな。あのね、子どもたちに負担のかからない形で聞くというのは、これは僕はありだと思えますよ。絶対に個人情報秘匿した上で、子どもたち一人一人に聞くというのはありだと思えますけれども、教職員に聞いてもわからないし、また、これ無理な負担をふやすだけです。これはね、文部科学省も文部科学省だし、報道するほうも報道するほうだと僕は思いますよ。そうじゃなくて、これ、大事なものはね、やっぱり、例えば、朝長議員さんは毎朝、あるいは毎夕、立たれていますよ、武雄中学校の前に。山口等議員さんは自宅の前の向かいのところで毎朝立たれていますよ。病魔に闘いながらも立たれていましたから、もう今、打ち勝っていますけど、ね。ほかの議員さんたちも、全部は言いませんけれども、そういうふうにされていて、そこでどういう光景があるかという、やっぱり声かけよんさつですもんね。そいぎ、気づいたらやっぱり声をかけるというのが、大人の役割なんですよ。これ、本当は家庭の役割なんですね。家庭の役割でも、なかなかそこは今のところうまくいかないというのがあって、やっぱり子どもたち言いにつかですもんね。私もいじめを受けた経験あつとですよ。いじめたこともありますけど。いじめを受けたときに、やっぱり親には言いにつかですもんね。そいけんが、そいはやっぱり身近に接する大人が、おじさんが、お婆さんが、やっぱり何かあつたとて、わかつですもんね。

何でそういうふう思い立ったかという、私は時間ができれば、武雄中学校とか、例えば、川登中学校とか北方中とか行っています。行って、授業中でもありながら、がらつてあけて中に入っていきます。そいぎですね、やっぱり問題のある子がいる教室でわかるんですよ。わかる。そいぎ、後で先生に聞くぎんた、やっぱりそこはやっぱりいじめのあるですもんねて言うわけですよ。そいけんが、そういうふう皆さんたちに学校に入つていけとは、そこまで言いませんけれども、自分がやっぱりできる範囲で、黒岩議員さんもしよんさつですもんね。北中の生徒さんとかに、やっぱり声をかけよんさつですもんね。そういうふう、

やっぱり声をかけるということが、そこに、ああ、社会とつながっているんだて、大人とつながっているんだて、やっぱり見守られているというのが、無意識でも入っていくというのが、僕はすごく大事だと思っていますので、この調査を全部否定するわけじゃありません。文部科学省の焦りも、教育委員会の焦りもわかります。わかるけれども、それ以上に声かけとか、そうすると、子どもたちが反応すつごとなつてすもんね。まず我々が心ば開けば、なります。私も数年前、そういう話がありました、いじめられています。それで、小学校全部回りましたもんね。それで、やっぱりいじめの減っていったというのもあつわけですよ。そいけんが、まずは子どもたちの心を開かせるためには、我々一般の大人が行って、やっぱりその心を開くというのが絶対、このいじめ問題ではまず大事だということを痛感しております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、答弁いただきましたが、軽微なそういういじめともわからないような、そういうことから大きないじめにつながってくる場合もあるわけで、そのシグナルというのを、やはりよく見きわめて、今後、教育委員会としても対応し、学校の先生にもそういう指導をぜひお願いしたいというふうをお願いいたします。

次に、道路関係の質問に移らせていただきます。

次に、国道35号線S字カーブ改良についてでございます。

御存じのとおり、このカーブ、西谷峠の魔のS字カーブでございます。これ、御存じのとおり、長年の市民の念願がかない、また、地権者の協力もありまして、この前から一部着工がなされております。これは、一部着工、今、工事用の仮設道路というので迂回路をつくられたところの写真でございますが、いよいよ着工になって、市民の期待も大きいわけですが、この着工を迎えて、市長はどのように、今、思っておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは何回も申し上げましたけれども、私がまだ霞が関で国家公務員をしていたときに、杉原、当時の議員さんですよ、あそこにいますけど、この方が本当に時間をオーバーして西谷峠の改修というのを切々と国土交通省であるとか、我々総務省の人間に訴えられていたんですよ。訴えられたんです。普通はここまでせんすもんね。だけど、西谷峠は、もうこれが認められんぎ帰られんて言いよんさつたですよ。まあ、帰いよんさつたですけど。それは公務がありますからね。ですので、そういうふうにならずと山内町民、あるいは町議の皆さま

ん、これは末藤議員さんも入りますし、浦さんとか大渡さんも入りますけれども、そういう町民の皆さんたちの熱意、総意が、この西谷峠の改修を動かしたというのが1つの側面。それと、2つ目の側面が、地権者の皆さんたちの、本当温かい合意なんですよ、地権者の皆さんたちの。ですので、これがまた大きな要因と。

そして、工事がやっぱり始まったですもんね。始まったら、やっぱりみんなが早く迂回路つくってほしいとか、広げてほしいというのが、直接我々のほうに入ってくるようになったんですよ。やっぱり動き出したということですよ。

これも、引退された古賀誠先生が一生懸命なんです。そいけん、国会議員もよかると悪かるとようおるなと思ひまして、本当に頼りになる人とならん人と、ですので、やっぱり町民、市民、そして心ある国会議員の皆さんたちとかが動かして、やっと一歩ついたということだと思いますので、これはちょっと安全を確認しながら、しかしながら、一日でも早い再オープンというか、というのはやっぱりしていきたいなというように思っていますし、本当にこれは万感の思いです。本当うれしく思っていますので、ここが魔の峠と呼ばれないようにということと、やっぱり、例えば、うちの合併はもう唯一の成功例だと思っておりますけれども、北方と武雄というのは、こういう峠のなかけん、心理的にも何となく近かいですよ。しかし、山内の場合は、心理的には近いですよ、近いけど、物理的にこういうのがあるけんですよ、あるけんが、どうしてもやっぱり一体感とかというので言うと、これが妨げになつとっわけですよ。ですので、これをやることによって、開通することによって、本当の意味での1市2町の、私は合併というのは達成されるということを思っていますので、これはもう私も力を注いで、来週また国土交通省に行ってきます、これ。行ってきますので、これはまたお願いをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当にもう市長のおっしゃるとおりで、本当にやっところまで来たなというふうに思っております。本当にありがとうございます。本当に皆さんの協力のおかげだと思います。

ただ、まだ私どもにも進捗といいましょうか、いつごろ終わるとというのが、まだ全然知らされてないわけですが、そういう工事関係、完成等含めまして、今、どの辺まで市として捉えられているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

いつごろの完成かというふうなことですけど、地権者の方の御協力をいただきながら、用地交渉を進めておるところでございます。完成予定につきましては、用地買収等、事業実施

の環境が整い次第、早急に進めたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

環境が整い次第で、まだ予定はわからないということですが、そしたら、今、用地買収はどれくらい進んでいるのか、おわかりだったらお示してください。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

現在の用地買収の状況でございますけど、平成24年、ことしの11月時点でございますけど、関係者ベースで6割程度進んでおります。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、6割ぐらいが買収済みだということですが、後は地権者さんの協力だと思います。その協力を促すためにも、ぜひ市当局からも協力をしていただいて、何とか早く買収が進みますように期待をしますので、よろしく願いいたします。

次は道路関係の、次は県道でございます。

県道も、山内町内5本ぐらいありますが、少しずつでございますが、改良を進めていただいております。この前は——この前といいますか、今年度は犬走地区の嬉野線も改良がある程度済んで、もう少し舗装まで済めば完了というところまで着きました。非常に見通しもよくなってきたところでございます。

これは、県道相知山内線ということで、清本鉄工の前を通る県道でございます。これも鳥海地区の中央部までは完成しているわけですが、あと、北の方向の武内のほうまでが、まだ全然手つかずでございます。そういうことで、非常に狭くカーブも多いというようなことで、地元からも早期完成をということで要望されている箇所でございます。

この前、お話を聞きましたところ、何かこの県道も工事着工に向けて動き出したというようなことも聞き及んでおるわけですが、この辺、工事の内容等について、わかっておれば御説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

県道相知山内線につきましての現状でございますけど、本年度、清本鉄工側の3区が着手になりました。この3区と申し上げますと、市道鳥海長谷線交差点から椿原のため池までの

680メートルでございます。現地の説明会につきましては、今月18日に開催される予定でございます。

本年度分としまして、年度末までに用地測量と丈量図の完成を予定しております。この3工区につきましては、平成25年度から用地交渉に入り、29年度完成の予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

そしたら、事業採択を受けて着手というようなことで、25年度から買収にかかれるというところでございますね。大体、総事業費はどれくらいになつてかわかっておりましたか。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

総事業費につきましては、4億6,800万円でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。29年度には完成予定ということでございますが、地元の方も用地買収にはもう十分協力すると言っておられるようでございますので、滞りなく完成することをお祈りするわけでございます。

もう1つ、県道でございます。これは梅野有田線、これ、宮野地区でございます。以前、浦議員も質問されておりましたが、これは完成した部分でございます。北側のほうですね。そして、完成していないところが、有田側のほうの部分でございます。この道路改修、今、用地買収とかで家屋移転の買収等も進んでいるようでございますが、この工事の進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

武雄梅野有田線につきましてでございますけど、事業箇所につきましては、山内町宮野の喫茶ミニの前から水尾入り口までの約550メートルでございます。

現在、家屋移転の補償と用地買収等を進めており、平成24年、今年度中にはほぼ完了する見込みでございます。

この区間の全体事業費につきましては、5億円となっております。

進捗状況は、平成23年度末で23.8%、平成24年度末の見込みで57.8%の予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

わかりました。速やかな完成をお願いするわけですが、早く済むように市側からも働きかけ、また、協力等よろしく願いして、私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で14番末藤議員の質問を終了させていただきます。

ここで議事の都合上、5分程度休憩をさせていただきます。

休 憩 11時18分

再 開 11時24分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、11番上野議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。朝からいろんないじめについてとか、福祉についてたくさんの質問が出ておまして、私の言うとも大分重複しますので、避けながら行きたいと思います。

きょう私は、福祉の充実と教育について、それから、健康づくりについての3つの点について質問をいたしたいと思います。

その前に、先ほど来より、市長より支援についての話がいっぱい出ておりましたけれども、私たち北方町地域婦人会では18、19、20日と陸前高田のほうに行っていました。もう半年ぐらい前から計画をしておりましたけれども、3つ目的があったんです。それで、聞いていただきたいと思いますが、1つは、90歳になるおばあちゃんが、ちょっとごめんなさい、こんな手縫いで（手提げを示す）手提げを半年かかって50個つくっていただきました。そして、自分は行き切らんし、どうかして届けてくんしゃいと、行くて聞いたけん、つくったよということです。これを持っていくこと、それから2つ目は、これも高齢の方ですけども、子どもたちのベストを50着編んでいただきました。これも自分は行き切らんよ。何かせんばいかんと思うけんが、あなたたちが行くて聞いたけん、持って行ってくんしゃい。そして、いろんなおミカンとか、丸芳露とかいろんなものをいただいて、持って行ってくんしゃいということです。それで、私たちはそれを持っていくことにしました。

そして、もう1つ、ぎりぎりになってから私たちに大きな一つの仕事ができました。それは、私たちの北方の町の方が陸前高田に嫁いで行かれて、それで看護師なんですけど、病院で流されて亡くなられたんです。そこもまたお母さんはもう88歳で自分は行き切らん、参って来てくんしゃい。私たちは本当に大きな仕事を、本当みんなで行こうねということでお線香を持ったり、般若心経を印刷してくださった方もおられました。みんな分持ってこられま

した。それを持って行ってまいりました。

それともう1つ、北方からは先ほど陸前高田の市のほうに出向していらっしゃる上田さんと古賀さんがいらっしゃいましたが、古賀龍一郎君は北方です。お母さんも息子の職場もちょっと見てみたかと、どがんとおろやろうかと、一緒に行こう、行かせてくんしゃいというので、これまた一緒に行きました。いっぱい学ぶべきこと、見るべきこと、せんばならんこといっぱい抱えながら私たち31名は行ってまいりました。本当に行って、先ほどから支援についてお話がっておりますけど、まだまだということを目の当たりにしてまいりました。

これで簡単にですけれども、全部読む時間はありませんので、幾つかをどうぞ見てください。皆さんの感想の代理です。読ませていただきます。「震災など関係なく、日々、平々凡々に暮らしている私たちが大変な目に遭い、いまだ復興のさなかにいる方々を物見遊山的に見に行くようで気が引ける気持ちで行こうかどうかと考えた末の参加でしたが、行って見て、時間がたって復興中とはいえ、震災のまだ生々しさが残る現地の惨状を直接目にして自然の恐ろしさを改めて感じました。想像した以上の惨状でした。浜ノ町商店街に寄っていただいたときには、何と声をおかけしていいかわからず、ただ今から寒くなるので、体に気をつけてくださいとしか言えませんでした。遠くから一日でも早い復興を願うばかりです。」ずっと飛ばしますけれども、「今さらながら原発反対の声をもっともっと広げなければと痛感します。百聞は一見にしかず、本当に現地に立ってわかることの多い旅でした。これからも見てきたことを伝えていきたいと思います。」「いざ現地を目にした途端、テレビで見た惨状と重なり、言い知れぬ恐怖感を覚えました。高田市の婦人会の方との交流会では、体験談を話されるときもいまだにあの恐ろしい情景がよみがえりますとのこと、涙せずには聞けませんでした。体験談を通していかに組織力が重要であることが教えていただきました。」

「地震や津波の高さなど物すごさを感じ、バスで移動しているときに、あの建物の中に天国のママへという書き込みがありましたという説明を聞いてから、涙がとめどもなく流れてきました。しばらく窓のほうばかり見ていました。その子どもたちはこれからどうなるのだろうと考え、本当につらくなりました。復興なんてまだまだずっと先のことなんだろうなと思い、これからもずっと東北のことを思って暮らしていかなければならないと思いました。」まだたくさんありますけど、一部です。こういうふうな感想を抱きながら私たちは帰ってまいりました。そしてまた、これからも、先ほど来、話が出ていますように、末永く私たちのできることの支援をやっていこうというふうに話をしております。ということでございました。

それで、質問に入りますが、そういう被災地から帰ってからのことです。帰りながらもですけれども、あんなときにどうして私たちは逃げたらいいんだろうね、どこに行くんだろうね、いろんな話が出ました。どこに行ってもあの話の聞いただけでは逃れ切らんよね、どがんとすんねという話。ちょうどそういう話をしているうちに、帰ってからですけれども、質問

の1番ですけれども、11月26日の新聞に「福祉避難所 9市町ゼロ」、武雄市ももちろんゼロ。あらっとみんなびっくりしました。一番弱者である方たちが避難におくれたということもいっぱいニュースでも聞いておりましたけど、この武雄市でもないのかなと思ってびっくりしましたが、その福祉避難所について質問をいたしますが、福祉避難所というのはどういう施設、どういうふうなのが整ったところを言うものかどうか。

また、私たちが避難所と決めてあるとは大抵公民館ですが、そういうところとか、どういうところが違うのかなというのをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

災害が起きたときにつきましては、避難しなければならない人たちを一時的に学校の体育館とか公民館などに設置した避難所に受け入れまして保護しなければならないというふうになっているところがございますけれども、そういう避難者の中でも高齢者の方とか、障がいをお持ちの方、それから、病弱的な方、こういう方につきましては、特別に配慮が必要というふうなところで、そういう方たちにつきましては、ある程度そういう方たちに対して配慮された建物、そういうところを福祉避難所として位置づけるというふうになっております。

想定される特別な配慮といたしましては、相談等含めましていろんな介助に当たる方を配置できる。それから、高齢者とか障がい者の方に配慮したポータブルトイレ等の整備がなされている。そのほか、日常生活を行う上で、例えばバリアフリーとか、そういうふうな形になっている、そういうふうな形で整備されたところについて福祉避難所として位置づけられているところがございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

では、今聞いているところによりますと、やっぱり公民館と何とかとはまた全く違うんですね、長期にわたる避難所ということになりましたけれども。ひとつこれはお伺いしたいんですけれども、今まで我が武雄市においてはいろんな避難訓練がされております。水害訓練はもとよりのこと、放射能に対しても他町との避難訓練も実施されております。よそに先駆けていろんな訓練がされておりますけれども、その訓練のときには、今言うような福祉避難所を要する者、要介護支援者の方たちに対しての訓練の計画というのはなかったのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

福祉避難所ということで指定はしておりませんが、指定避難所の中ですね、先ほど言いましたトイレとか、それから、ある程度バリアフリーになってスロープが設置されているとか、そういうところの小学校とか中学校、市内にはたくさんあるわけですが、いろんな訓練の中では、例えば施設での訓練とかにつきましては、障がいをお持ちの方の避難訓練等は行っておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

それでは本当の避難訓練にはならないというのは大げさかもわかりませんが、私は、こんなにたくさん避難訓練がいつもされているので、ああ、よかったなと思っておりました。その中でやはりこういうことはもう解決しているんじゃないかなと思っておったものですからね、この新聞を見てびっくりしたところでございます。

それでは今からのことですが、市長のブログにもありましたように、早急にということを書いてありましたが、今後どのような計画をしていらっしゃるのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

けさ武雄市社会福祉法人、社協ですよね、社会福祉協議会と協定書を結びました。それで福祉避難所の指定として日輪荘、さざんか荘、長寿園を対象施設として指定をしました。運営及び経費については、基本的に3法人に対応してもらいますが、市も支援を行いたいというふうに思っておりますし、経費については市が負担をいたします。

いずれにしても、ちょっとこれあれなんです。これは僕もしまったと思ったんですね。実際、山田部長を初めとして事務方では、これ調整していたんです。ですが、ああいうふうだね、別に佐賀新聞を否定するわけじゃないですけども、ばたんって書かれて、非常にこれはある意味いいことだと、ショック療法ですね。いいことだと思いますし、それに我々はやっぱりちゃんと対応しなきゃいけないということではあるんですけど、ただ、見出しがだめね、佐賀新聞は。全然やっていないというふうに書かれていたじゃないですか。だけど、僕らちゃんとやろうとしていたんですよ。だけど、ある事件でギロチンみたいに切ってしまうということは、これは報道機関としてはいかなものかとやっぱり思いますよ。あれでぱつとやっぱり不安が広がりましたもんね。ですから、やっぱりそこは報道機関にもやっぱり考えてほしいと思いますよ。

ですが、それはそれとして我々が教訓で得たのは、ちゃんと、もうスピードは最大の付加

価値だってやっぱり思いました。そうすることによって、きちんと評価をされるという意味では、我々のほうにもやっぱり落ち度があったということはもう認めざるを得ませんし、まず隗より始めよ、スピードは最大の付加価値、上野議員さんの質問の前に協定を済ませて、それのできる限り早い段階で日輪荘、さざんか荘、長寿園を福祉避難所として開設をすること、そして、また幾つかちょっと声をかけておりますので、それも整え次第ちゃんとしていきたいというふうに思っております。

ただ、これ福祉避難所じゃなくても、やっぱりこれが遠かったら話にならないわけですよ。ですので、指定福祉法人でしたっけ、であるとか、あと公民館もやっぱりこれもきちんと意識をして、障がいをお持ちの方々とか御高齢者の皆さんとかをちゃんと温かく迎えるような施設にするようにね、これは避難所との指定とは別に、もう一度きちんと検証をすることをしてまいりたいと、このように思っております。そして、これが一点めどがついた時点で、ちゃんと地図にして、また、市報であるとか、社協の広報紙であるとか、そういったところでちゃんとお知らせをすることが我々の次の責任だろうというように思っております。佐賀新聞には感謝をしております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございます。今、市長がおっしゃったように、私も福祉避難所と別に、それぞれの小さな公民館の避難所はどうなっているかなということもお聞きしたかったんです。やはり一番近いところに避難をしたいと思っておりますので。それから、ずっと以前に私もこの一般質問で言ったかなと思うんでね、合併したすぐに。年配の方が避難所には行かんよと、公民館にはと、何で行かんねと聞いたら、洋式便所がなかけん、行かんて。私は行き切らんと。それがずっと頭に残っていたんです。ですから、今、市長がおっしゃるような、そういう小さな我々の身近にあるところも避難所として確立をお願いしたいと思います。本当にスピーディーな結論ありがとうございます。広報を楽しみしております。やっぱり周りから不安の声、うわっと来たんですよ。この新聞を見てですね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

では、せっかくの機会なんで上野議員さんにお伺いしたいんですけどね。

避難所の指定とかというのはちょっと別にしても、やっぱり障がいをお持ちの方とか御高齢者の方々がやっぱり一番必要とされるのはお手洗いなんじゃないかな。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

やっぱりそうです。一番言われるのはすぐそこです。それから、我々が年配の方、お年寄りの方、ちょっと要援護者の方を連れていくときもやっぱりそれをすぐ言われます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

わかりました。新年度予算で、まださっきつながる部長に確認したら、公民館でも入っていないところがありますので、町の公民館として——町の公民館だよね。（発言する者あり）入っていないところがありますので、それは新年度予算で洋式トイレ、少なくとも1つはつけるようにしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

きょう聞かれている方もきっと安心されたことと思います。いつ何があるかわからないときですから、早くスピーディーに市長の考えでお願いしたいと思います。

じゃ、次に移ります。

安心・安全な暮らしをするために、我々はいろんな地域のニーズを求めながらいろんな質問をしておりますが、次に、今の避難訓練ではありませんけど、次は施設の避難訓練についてお尋ねをしたいと思います。

私は、せんだって北方町にある施設の夜間避難訓練のほうに参加させていただきました。市のほうからも来ていただいておりました。本当にそこは70人という方が入所していらっしゃるところで、大変広いところですが、夜間、火災訓練ということでしたが、大きなサイレンが鳴り、地域の方々も加勢して、それから、地域の消防団の方も参加されての避難訓練でしたが、私も初めて参加して本当にびっくりしました。寒い夜でした。真っ暗いときに、少し認知症もかかっている、本当に高齢者で不自由な方たちを全部じゃないですけど、ある一部の方たちを車椅子で出して、そして避難をさせていらっしゃる様子でした。本当そこの施設は毎年されているようで、職員の方たちも手なれた様子でされておりましたが、来られた消防団の方たちは、これどがんするぎよかとかな、これどけあいかなということで、初めてこられた方がいらしたんじゃないかなと思います。それで、うわっ大変だなと。でも、本当にここにそういう火災とか災害があった場合にはどうするのか。やっぱり東日本のときにも訓練が第一だということを何度も何度もお聞きしました。それで、ほかの施設はどういうふうになっているのか、お聞きしたいと思って。その施設は自主的にやっていますということでしたけれども、どんな状態なんでしょうか、現状は。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

各施設の避難訓練等を行います部分でございますけれども、消防法等の規定によりまして、各施設につきましては防火管理者を設置するようになっております。また、その防火管理者が防火にかかわる消防計画を立てるようになっておりまして、全ての施設でそういうふうな取り組みをするような形になっているところでございます。各施設に問い合わせをしましたところ、少なくとも年1回はそういう避難訓練をしているというところで、先ほど言われました施設につきまして、そのほかにもあるわけですが、そういう施設につきましては2回以上行われているということで、ほかにも夜間訓練を行われている施設もあるというふうにお聞きしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

はっきりした、ここからこうしなさいというあれはないかとお聞きしましたけれども、でも、1回しているところ、2回しているところ、年に1回するかせんかというようなところでは困るんじゃないかなと思います。今グループホームというのはたくさんあっちこちでできております。設立されております。そこに消防法というのがあるとは思いますが、実際にされているかどうかをですね、本当、強制じゃないですけども、やっぱり、その弱者の人たちを守るためには、そこを何とか市としてリードしていくわけにいかないんですかね。何とかそのところはできないものなんでしょうか。消防法とか、それに載っているけれども、していると思いますじゃくてですね、1回はしてほしいとかですよ、そういう強い要望はできないもんですか。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

少し説明不足があったようですので、改めて説明させていただきますけれども、消防法によりまして30人以上の入所者とか、収容する施設、それにつきましては、年2回以上、それ以下の施設でも年1回は義務づけられておりますので、必ずしなければいけないというふうになっているところでございます。

先ほど言われました宅老所関係についてもそういう計画をつくってもらっておりまして、実施はされているというところで、私が聞いているというような部分で発言した分は施設に問い合わせられていますので、全部の施設でされているということでお願いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

はい、わかりました。では安心いたしました。本当に弱者の方というのは、本当に自分は参加してみて思ったんですよ。こがん暗かとか私ほどがんで逃ぐ、自分でも思ったのに、何もわからない方がどういうふうにしていくのかというのは、これは訓練以外にはないのかなと思って見ておりましたので、そのほうも市のほうとしても時々は調べていただきたいなと思っております。

じゃ、次の質問に移ります。

次は、図書館についてです。

図書館については、もう先日来よりたくさんの方から質問が出ておりますが、この図書館、新しい図書館、私は本当にいつできるかなと楽しみにしながらお待ちしております。今のところは貸し出しもできておりませんから、今しばらくの辛抱で新しい図書館を目の前に私たちは楽しみにしているところでございます。先日来、市長が、誰でもが楽しめる図書館にということをおっしゃいました。それで、私は、ひとつこれはお尋ねですけれども、今までの図書館で大人も子どもも体の不自由な方たちも行ける、楽しめる図書館だったと思いますが、体の不自由な方たちへの工夫というか、援助努力というのはどういうふうにはなされていたかなど、わかるところだけで結構ですので、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

現在の図書館ですけれども、休館中であるわけですけれども、子どもたち、あるいは障がいをお持ちの方にとっては利用しやすい図書館だったのかということでも申し上げますと、バリアフリーという形になっているというふうに思います。また、2階にも読書室等々ございますけれども、これはエレベーターも設置をしておりますし、エレベーターで行けるということになっております。トイレにつきましても、皆さんがですね、障がいをお持ちの方も使えるようなトイレということ、あるいはまた子どもたちにとっても小さな便器も用意しておりますし、そのようなことで使いやすい施設になっていたというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

建物全体、図書館全体としてはいろんな工夫をされていると思います。でも、図書館には本当に谷口議員からも出ておりましたように、歴史を大事にする人、文化を大事にする人、そして、本をいっぱい読みたい人、たくさんいろんな方が大人から子どもまで集まります。その中にも不自由の方がいらっしゃると思うんです。その方たちもやっぱり私たち同じ武雄

市民です。平等に図書館の楽しみを得なければならないと思います。それで、ひとつ皆様に知ってほしいことがあります。きょうは紹介したいと思います。

図書館に目の見えない方は何で来ていらっしゃると思いますか。耳の聞こえない方はどうして図書を聞いていらっしゃると思いますか。私たち健常者はそんなことは何とも思わずに図書館に行き、楽しい本を読み、みんなで楽しんでまいりました。ここで本当に皆さんに知ってほしいこと、そして、今度新しい図書館になったとき、ここを充実させて、みんなが平等に楽しめる楽しい図書館にしてもらいたくて、以下のことを皆さんに知ってもらいたいと思います。

ちょっと読ませてください。「広報武雄を録音テープで聞いてみませんか。私たちは図書館のボランティア、エポカル武雄フレンズの音訳グループです。毎月発行されている武雄の広報紙を音訳してテープやCDをつくり、視覚障がい者の方々に無料で郵送しています。一度聞いてみられませんか。これまでに新・ふるさとの歴史散歩武雄や武雄に関する本を音訳して御希望の方にお送りしています。武雄市や社会福祉協議会や公民館からのお知らせ、または電気製品など商品の取り扱い説明書などの印刷物を音訳するサービスも行っています。点訳サービスもあります。新聞のコラムなど御希望のものを点訳し、お届けするサービスも行っています。また、音訳、対面朗読、点訳など御希望の方はお気軽に御連絡ください。」というふうなチラシをボランティアでされている方たちがいらっしやいます。そして、この音訳したテープをちょっと見てください。ちゃんとテープにこのように（カセットテープを示す）録音して、御希望者のあられる方には、これCDもです、これに入れてお貸しする。返される方はこれをそのままポストの中に入れて戻ってくるというふうになっているそうです。これもみんな手づくりでされています。テープもみんなボランティアの方が全部出前でいろんなことをされる。それが私も本当武雄のことよく知らないでございましたけれども、平成14年から始められているんですね。何人かのボランティアの方でですね。そして、点訳した本を、私も気づかんでおりましたけど、皆さん気づかれましたか。もとのエポカルに行かれたときに、入り口のほうに翻訳した本を立てかけてあったのをですね。それも自費でちゃんと点訳されて本をしてある。そんなのも本当にうかつでした、私たちもですね。だから、今度新しい図書館になった場合には、ぜひこのようなこともしっかりと受け継いでほしいということと、それから、これをエポカル武雄フレンズの方たちは、皆さんに知ってほしい、この知ってほしい広報の手助けを市役所のほうでやってくれないだろうかという気持ちを持っていらっしゃると思います。それをぜひやるべきだと思いますが。

それから、もう1つごめんなさい。こんなにですね。それから、市長の「首長パンチ」なんかもちょうどCDに翻訳してあります。いろんなことしてあります。それから、市報を毎月音訳されております。きょうはそれをテープで聞いていただきたいなと思ったんですけど、ここは禁止でしたので、これをですね、目をつぶってください。それで11月号の市報です。

表紙には誰々さんが白い表紙の上に写真が、児童用の椅子に座って、もう本当にわかるようにずっと詳しくですね、全部これ音訳されています。こういうのを毎月されているんですよ。だから、こんなもん大事にしながらですね、本当にみんなの図書館になっていけばなどと思いますが、どういうふうなお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

本当、エポカル武雄フレンズの皆さんたちには感謝をしています。私も何人か知り合いがいらっしゃいますけれども、本当に利他の精神で頑張っておられます。こういうお気持ちを無にすることなくね、引き続き我々としては応援をしていくということを約束します。先ほど議員御指摘の広報については、ちょっとこれは時期を一応考えさせていただいて、市報でこの特集をさせていただきます。その時期は我々のほうにお任せをいただきたい。

もう1個ですね、これ大事なのは場所なんです。後でちょっと御質問あろうかなと思っただけですけど、もう関連します。これは2階の（パネルを示す）これそのものは学習室です。こういうふうに学習室を変えます。変えて、そしてしかもですね、ここにガラス戸をつけて、今はフリーになっていますので、ガラス戸をつけまして、もうここが完全に無音の状態にします。これちょっとパース絵をつくっていませんけど、この奥の方に今余り使わない会議室がありますので、これをエポカル武雄フレンズの皆さん、ボランティアグループの皆さんに開放したいと思っています。そうすることによって、ここでいろんな議論ができるし、エポカル武雄フレンズの皆さんから会議室が欲しいという御要請もいただいておりますので、その声に真摯に応えたいと思っています。あわせてまた活動する場はまた別途、古賀部長ね、設けておりますので、これはもし御質問を賜ればその際にお答えをしたいと思います。

です。場所も広げる、そして、なおかつその支援については今までどおり、今まで以上にやっていきたいというふうに思っております。いずれかのタイミングでエポカルフレンズの皆さんと私と一回意見交換会をぜひしたいなと思っていますので、これも時期を見てですね、武雄フレンズの皆さんたちもお忙しいと思いますので、それもぜひ、図書館が発足前にそういう交流会をしていきたいというふうにも思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

わかりました。きっとすばらしい音訳ボランティアですね、図書館、エポカルフレンズの方たちも喜んで、ますますたくさん本を翻訳していただくことと思います。

今、市長さっきおっしゃったように、場所を聞こうと思っていましたんですけども、録

音の場所とか一応めどはありましたら今お聞かせ願えますか。作業の場所。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

すみません。ちょっとパーツ絵を用意していないんですけれども、先ほど市長から話があったとおり会議室については2階に御用意をするということにいたしております。

それから、作業の場合につきましても、1階に用意をするということですので、またCCCの皆さん、あるいは現在の市の担当者とエポカルフレンズの皆さんと話し合いの場を持って、そこら辺詰めていきたくというふうに考えております。（「1階というのはどこね、想定しておるところは」と呼ぶ者あり）

1階の、入りまして右のほうに行きます。今奥のほうに小さな部屋があるわけですがけれども、あそこを御用意したいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

また、市長おっしゃるように、フレンズの方たちと色々な話し合いされながら、本当に有利に進めていきたいなと思っております。ありがとうございました。

次に、1つこれ質問ですけれども、平成22年度まではホームページのところで聞かれたとおっしゃっていますが、その後はどうなっているのかな。市報の音訳を聞かれたと。（発言する者あり）聞くことができましたと。今はどうなっていますかということですが。（発言する者あり）いや、いいです。また後で。いいです。ではまた話し合いのときにでもお願いしたいと思います。

それから、ひとつ私が図書館についてCCCの方と話し合っただけで本当にいいなと思ったのは、CCCの方、東京にいろいろな皆さんが行ったときに、ボランティアというのはあっちでは考えられないと。こっちのほうからボランティアはこうこうですよと言ったら、もうびっくりしておられたんです。そして、このボランティアを自分たちは大事にしていきたいということをお聞いて、本当にうれしく思ったんです。だから、本当にきつとすばらしい図書館になると思います。

○議長（杉原豊喜君）

ここで、議事の都合上、1時20分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	11時58分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

先ほどボランティアルームの位置に関しまして口で御説明をいたしましたので、図で御説明をさせていただきたいというふうに思いますが、（モニター使用）図書館・歴史資料館、入り口から入りまして右側のほうになりまして、奥のほうですね、赤い部分になりますので、そこをボランティアルームとして御用意させていただくということになります。なお、さきに申し上げましたが、2階の会議室につきましては、この赤の位置になります。

次に、ホームページからの音声で聞くことができなくなったんじゃないかという御指摘でございまして、調査いたしましたところ、2010年の11月まではホームページから聞くことができるという状態だったわけですけれども、手違いございまして、その後アップされておりましたので、早速改善をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

図書館に関連してなんですけれども、先ほど吉川議員のときに、蘭学館の今後の扱いについて申し述べましたけれども、我々とすれば、これについては蘭学館の位置づけが今度変わりますので、条例改正をしたいと思えます。条例改正案を策定の上、臨時議会を招集させていただきます。その目途については議長とよく相談しますけれども、1月を目途に臨時議会を招集させていただきます。そこに関連の条例案、そして関連の予算案をそこで一括して議題に上げていただいて、そこで広範の議論を賜っていきたいというふうに思っております。その予算というのも、今の蘭学館ではなくて、企画展示室に行った場合に、例えば、モニターの問題とかさまざま、これは備品購入の必要がありますので、そういったものについての予算等を考えております。条例内容につきましても図書館の設置条例ほかになると思うんですが、ひょっとすると手数料条例も改正する必要があるかもしれませんけれども、いずれにしても位置づけが変わりますので、それはきちんと市民の皆さんたちにわかるようにしていきたいというふうに思っております。ですので、またそのときに広範な御議論を賜ればありがたいと思えます。

ただ、先ほど申し上げたとおり、今よりも悪くなるということは絶対にありません。今は最低最悪です。ですので、吉川議員がありましたように、ゼロなんですよ、大体ずっと。それが今よりも悪くなるということはありませんので、そこは我々が蘭学をないがしろにするとか軽視するじゃなくて、より大切にするためにきちんと展示をするということですので、ぜひ足を引っ張らないような議論をお願いしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

よくわかりました。また図書館についてはその都度論議いたしたいと思います。

では、次の質問に入りたいと思います。

教育の問題ですけれども、先ほど来いじめのことについてはいろいろ論議、先議されておりますし、市長からも私の考えているとおりの答えは言っていただきましたので、いじめについては、質問は途中ですけれども、1つだけ現場にお聞きしたいと思います。

再度ですね、2倍になったというこの報道を見て、やっぱりうちの子ではないだろうか、うちはどうだろうかという保護者の方たちの不安は大分募ってまいりました。うちはこういうふうにして9月の議会でもいじめについてはいろんな質問をしましたし、学校としてもそれこそ工夫されたアンケートでいろんなことをされてですね、子どもたちを未然に防ぐために活動しておられますよということと言いましたけれども、それ以後、また改めて再度こういう倍、うちのことじゃないにしてもですね、ということに関して教育現場におきましては再度ということでのどのような取り組みとか、どのようなことをされたのか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

いじめにつきましては、2点申し上げたいと思います。

まず1つは、やはり起きたときの迅速な対応というのは、保護者の方、子どもたちにとって非常に心配の種でありますので、その迅速な対応、そして、やっぱり担任が一人で抱え込むということで負担も出ますので、そういう組織的な情報交換とか、共通理解とか、それが有効にできると。それから、もちろん保護者の方とやっぱり日常からいろんなことが担任なり学校に言っていただけるような体制をつくっていくと。もちろん甚大な内容につきましては、例えば暴力行為とか含みますと、やはり警察の方と連絡とって対応することもあるわけですが、まずは起こったときへの体制が整っているかということが1つであります。

それから、そうなる前ですね、事前に日常的に何ができるかということが非常に大事でありますので、今まで割とこの予防的なカリキュラムが余りできていなかったんじゃないかという反省で、アンケートはもちろんですけれども、個人面談とか、個人のノートとか、日記的なつながりの中で把握するとか、それから、いつか申し上げましたように、昨年、一昨年と心といのちの健康を育む武雄プランという事業を行いましたけれども、その中でも命のかかわるような取り組みを授業としても計画しておりますので、そういうことを計画して、事前に何ができるかというところも大事にしていきたいと。これは各学校で共通した意識だろうというふうに思います。

それから、具体的にはですね、子どもたちが実際にいじめはよくないことだということで、

考え、話し合い、何ができるかという、このところも非常に大事なことかというふうに思います。御存じのとおり、武雄中ではかつていじめ追放宣言等されてあるわけですが、自分たちでできることもいろいろあるはずだということで、さまざまに取り組んでおられますし、また、そういういじめ等が出にくい、楽しい学校づくりというのを、いろんな学校あるんですけども、例えば北中学校の夢プロジェクトなんかこう見て、子どもたちが生き生き伸び伸び交流してやっていますと、ああ、起こりにくいだろうというのは当然あるわけでありますので、そういう子どもたちの活動とかを大事にして、いじめいじめと言うとちょっと暗くなるわけでわけでありますので、そういう学校づくりの中でですね、学級づくり、学年づくりの中で子どもたちが取り組んでいくと、そういう体制づくりが最終的には一番大事なことかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

学校現場においても、それぞれに本当にいろいろ工夫をされていらっしゃることはよくわかります。だからどうぞ、本当に現場の先生方はいつも毎回毎回出ますけれども、超多忙のときですけども、子どもたちと向き合って心を開く現場にしてほしいなと思っております。

では、次に移りますが、そういういじめがたくさん出ている原因、全国のことでしょうけれども、そのいじめをなくすためには一体どうしたらいいのかなという話もあちこちたくさん出ておりますし、ここでもたくさん出ております。ちょっと調べてみましたら、何か平成18年ですかね、教育基本法に新たにですよ、学校、家庭及び地域住民等の相互の連帯教育ということで、新たに。それで、何でもかなとグラフを見てみますと、やっぱり18年度からいじめのグラフというのがぐっと上がっているんですよ。そのときに、やっぱり国も改めてこういうふうな制度をとられたと。

そこで、私の質問ですけども、やっぱり学校だけではどうしようもない。きょうの先ほどの市長の話でもありましたように、やっぱりみんなできていかなばいかなということで、ここで連携というのが出てくるんじゃないかなと思うんです。先日ですね、北方では小学校、中学校の町民育成のときの少年の主張大会がありました。小学校14名、中学校14名が自分の主張をたくさん述べて、本当にわあすごいな、うちの子を見て立派だなと思って聞かせていただきましたが、その中で私は大半の子どもたちが地域に出かけて行って、地域の人との間からいろんなことを学び、それを将来につなげていくというような意見がいっぱいあったんです。それで、ああ、やっぱり地域に出ていく連携は、ああ、こういうところが大事なんだなと思いました。例えば、私たちが自分の、もう孫でも何でもいいですけども、挨拶はせんばいかなよと、誰とも挨拶しなさいよと、それで、はんはんと言って余りしません。それでたまたま体験学習で地域に出たときに、そこでしっかり挨拶ばせんばと言われてみて、挨拶

搦は大変だなと思いましたが、あら、ずっと家でも言いよんさったとけねと思ったですけどね。そういうふうに、地域で本当に大変いろんなことを学んでいる、その連携というのが大事なので、ここに連携というのが出てきたのかなと思っております。その地域とか、小学校、中学校、そしてまた行政との連携というのをどういうふうにしていらっしゃるのか、今現在されているものなのか、具体的に知らせてほしいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありました北方の子どもたちの主張大会、私も後半聞かせていただきまして、本当に職場体験に行った経験などというのが、これだけ子どもたちの心に響いているのかということに改めて強く感じました。

今おっしゃいましたように、いじめ対応についても、多分、市長さんが学校を回っていただいたのが18年度やなかったかと思うんですが、確かにそういう形でいろんな対応する中で子どもたちも育っているというところは改めて感じるわけです。

幾つか具体的にということでもありますので、お話ししたいと思いますが、（モニター使用）これは武雄中学校の「武中のちから」という事業であります。これは家庭、学校、地域連携支援体制づくり事業ということで、これは講演会があったときかと思いますが、実行委員会を立ち上げていただいて、応援団であったり、あるいは学習支援であったり、いろんな形で地域全体で子どもを育てる事業を行っていただいております。また、これは同じ武雄中学校のほうの子どもたちへの読み聞かせですね、これはやはり私どもも最初中学生に読み聞かせというのはどうなのかというのはちょっと半信半疑の点もあったんですけども、実際生徒たちは非常に集中して聞いてくれているということを聞いております。それから、これが北方中学校での第1回の学校運営協議会であります。これはコミュニティースクールということで運営協議会制度を立ち上げて、地域と一体となって地域とともにある学校づくり、そのためにどんなことができるかという協議の場でございます。その中で中学校のほうでも以前に比べ非常に生徒たちが地域に出かけて、そしていろんな活動をして、ある地域の方も非常に感謝されているというようなことまで聞こえております。

先ほどの主張の大会でも私自身も地域のことをこれだけたくさん言ってくれたのは初めてじゃないかなというようなことを聞きまして、その同じ、先ほどの挨拶で言いますと、家族が言っても聞かなくても、ほかの人から言われたら本当に素直に聞いてというような状況がたくさん見られているわけでございます。そういうことを聞いております。これは北方中学校の同じ学校運営協議会でございます。これ第2回目のですかね。これが先ほど言いました吹奏楽部では、介護施設の慰問演奏等をおかなりの回数を多くしてくれているようであります。自分たちがためになったということを非常に強く言ってくれました。これは保育園も慰問し

てくれております。これは夏休みに公民館です、北方小学校での、昨年度からこういう形で地域で夏休みの午前中、日数とかそれぞれ違いもあるようではありますが、非常に強いかわりを持っていただいているということをお大変感謝しているところであります。こういう状況でございます。これは北中学校、先ほど言いました夢プロジェクトの中の地域の人も一緒になった一体型ミュージカルというのを見せていただきまして、本当に創意工夫を生かして、そういういろんなつながりを持っていただいているということでございます。川登中学校では平和に関しての講話をこのような形でしていただいております。平和については非常に実感が湧かないわけではありますが、こうして体験をもとに話していただくということで非常に感銘深く聞いているようでもあります。山内中学校では、毎年このように敬老会に必ずどの部落にも中学生が出席して言葉を言い、プレゼントを贈りというようなことを見せていただいております。

具体的な例として申し上げましたけれども、こういう中で中学校の例をきょう申し上げましたけれども、こういう中で地域で生まれ、そして自分の存在感を強く持っているという非常にありがたく思っております、今後ともこの方向で進めていくように学校のほうとも話をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にたくさんの方々のことを、たくさんの方々と一緒に実践されていることがよくわかりました。

すみません、ここには地域、学校、それから家庭との連携がありますけれども、行政とのつながりというのはどういうところを考えていけばいいのでしょうか。私は行政とのつながりというのも絶対大事だと思いますし、どういうふうにそこを生かしていけばいいのか一言。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

この場合の行政とのつながりというと、生徒のですか。生徒の……

〔11番「いえ、いえ。生徒じゃなくて、その連携という、行事の中で」〕

あ、そうですね、はい。行政との連携としましては、私どもが各学校の年間の計画を見ましたときに、やはり従来よりも連携する担当の職員をぜひ配置してもらおう。これは小学校、あるいは地域の方、いろんな団体の方と連携していただく。そういう担当を決めたりします。

それから、今の中では各教育委員会以外にも本当に深くかかわっていただいている場合が多々あるわけでありまして、最近特にふえているわけでございます。それは直接的には福祉的な面とか、あるいは地域の公民館でありますとか、あるいは先ほど余り多くないほうがい

いんですが、警察の方にお世話になることもあるわけでありまして、したがって、そういう外との連携、行政との関係につきましても、極力校長を中心にして担当を決めたり、あるいは組織、あるいは横の中学校との関係の中で連携を深めていくというようなことで進めているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

行政といえはすぐ金銭的にもいろんなことが絡んでくるんじゃないかと思いますが、どうぞしっかりやっていただきたいと思います。

こういうふうに学校、家庭、教育、地域、行政が連携して、そして地域でどこでも子どもたちの小さなSOSを見逃さずに私たちは未然に防いでいきたいなと思っております。そして住みよい武雄市になっていけばいいなと思っております。

では最後に、健康づくりについて質問いたします。

せんだって11月17日物産まつりの日でしたけれども、朝から小雨が降っておりましたし、とっても寒かったし、こんな寒い日にウォーキングってあるのかなと思っておりましたが、武雄市婦人会ではですね、ハートピアの前の池のほとりのところで湯茶接待の仕事があったんです。こが雨の日に来んさるもんかねと言いながらで、私たちも寒さに震えながらそこでレモンお茶を用意したり、あめ湯を用意したりしておりましたけれども、何と来られるんですね。雨は降っていたので、雨がっぱを着て長靴を履いて、着がえをリュックに背負って、そして来られる。それも親子連れ。多分御夫婦かなと。それからひとりで来られる方は大変多かったです。何でこが雨の日には寒かときに来んさろうかと私は思ったんですけれども、来られた方に、できる限りお話をしたんですけれども、みんな近くの方じゃなくて、佐賀とか久留米とかですね、いろいろなところからいらしている。そして、それも面々に、団体で来られるわけじゃなくて、ぽつんぽつんとですね。その日は最後までおりませんでしたけれども、どうでしたかと、最後会長さんに聞いたら、120人ぐらい来んさったよと。私びっくりしたんです。どこがよかとか言ったら失礼ですけども、私やったらこんな寒いとき行かんのにも思ったんですけど、本当にみんなにこにこしてですね、きょうはここに行って、次はあそこに行きますよと。そしてもう1ついいことは、前の日に武雄に泊まって、今日は歩いていますと。誰かさんは、きょうは歩きましたので、今夜泊まって帰りますと。あらって、私は思いました。そして本当にこれこそ真の健康づくりかな、そして、余りお金もかからないし、いいところを見ていただいでできる、本当にすばらしい健康づくりの一環だなと思って。今まで本当に目を向けなくて失礼でしたけれども、武雄市においてはそういうところをどんなふうに現在していらっしゃるのかなというのもお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今我々が一番力を入れているのはオルレなんですね。オルレというと、濟州島の方言で我が家に帰る細い道というそうで、今韓国人で知らない人がいない方言なんですね。まあ、日本でいうと長崎のさるくに近いのかもしれませんが。これが韓国の流行語大賞にノミネートされるぐらいに、この濟州島の一方言が——ハイキング、トレッキングなんですね。だから、朝日新聞の記事を見ていたら韓流ハイキングという言い方もされていましたけれども、とにかくハイキングとトレッキングの間のもので。すなわちこのオルレというのは、ハイキングの場合やったら、すごい短いとかあるじゃないですか。これ大体10キロから20キロなんですよ。ただし、一般の方々が歩けるように、アップダウンももう100メートル以内なんで、割と平坦なところを歩いていくということと、もう1つポイントが、市街地を必ず歩くと。要するに、東川登の楠峯だけじゃなくてですね、何というんですかね、武雄温泉駅とか楼門とか、そういう市内の名所を歩いた上でそういったハイツの裏のところとか歩くのがオルレで、長くなりましたけれども、これ九州観光推進機構と国土交通省、九州運輸局が新たに導入したのがこの九州オルレ事業なんです。今第1弾として九州内に4コース、私どもの武雄、奥豊後、上天草、そして指宿が選定をされています。

武雄温泉駅をスタートして、ちょっと説明してもいいですかね。モニターをお願いしたいと思うんですが、（モニター使用）ちょっとごめんなさい、これ見にくくて恐縮なんですけれども、武雄温泉駅をスタートして、これ大体14キロ強あるんですけれども、いろんなところを通っていきます。よく白岩の前のところはみんな参りますけど、奥のところはなかなか行ったことがないと思うんですけど、非常にそのハイキングとして歩きやすい環境になっています。そして、永島のほうにおりてきて、貴明寺であったりとか、下の方に行きますけれども、ニューハートピアの手前の部分、池内湖をしてペンションピクニックの前をたどって、今度はこのAコース、ここがちょっと少し急峻になるんですけど、山岳遊歩道をこういうふうに回っていくということになっていきます。14.5キロで時間にして大体4時間から5時間で行かれます。私も1回参りましたけれども、こういう目印が、（リボンを示す）これはオルレに共通してあるんですけど、こういう目印が掲げられていますので、これをひとつ道に迷わないようにね、我々としてもしていますし、そのコースを満喫した後は武雄温泉をぜひ楽しんでいただきたいという意味で、最後のゴールがこの楼門前になっています。

私は、長くなって恐縮なんですけれども、濟州島のオルレ、一部の議員がぐちゃぐちゃにしましたけれども、オルレに行ってまいりましたけれども、その濟州島のオルレで、もう世界遺産の中を歩いていくんですよ。こいは武雄は絶対かなわんばいと思うたです。そいぎ、濟州島のオルレの会長、すなわち全体のオルレの会長、私はお友達ですもんね。そいぎですね、がん言いんさったです。これリップサービスを含んでいるかどうかわかりませんが、

我々済州島のオルレに匹敵するのは武雄だけですよと言んさったとですよ。これみんなの前で言んさったとですよ。あ、これで行ってよかったなと思いましたが。

それで、どういうことかというぎ、確かに勇壮な自然では済州島が上ですと、しかし、武雄には生活のぬくもりが感じられますと。例えば貴明寺で、僕、恩師ですけど、あの和尚さんは。あの和尚さんの、何というんですかね、立ち振る舞いとか、ああいうお堂に入って説法をするとかですよ、あとお地蔵さんが観光資源なんですよ。これは失礼な言い方になるかもしれませんが、みんなお地蔵さんの前で写真を撮らすわけですよ、記念撮影を。こい日本人の精神性では考えられんことでもんね、お地蔵さんの前で撮るといのは。だけど、これがやっぱり我々は地元に住んどるぎなかなかわからんですけども、これが観光資源になっている。それで、一番驚いたのは、武雄温泉駅の前で、多分これ新町だと思んですけど、そこで大根ば干しよんさったとて、大根を。そいぎ韓国のおばちゃんたちが、私たちが干していますと言うて、アンニョンハシムニカとかと言うて、そこで会話の始まるわけですよ。これがやっぱり生活に触れ合うといのはここしかなかわけですね。

私は、済州島の20キロのコースに行きました。行ったときに、お昼御飯、誰が用意しんさったと、婦人会です。地域連絡婦人会というところでした。（笑声）いや、これうそじゃなかですよ。婦人会、婦人会がですね、その漁港ですもんね、漁港の婦人会の皆さんたちがウニ井とウニうどんとって用意しとんさったわけです。それで我々が食べていったときに、そのとき婦会のメンバーの海女さんのおんっさとですよ。その人が私の目の前で、急に歌い出したり踊り出したりしんさるわけです。これがそうなんだと、おもてなしなんだと、その踊りとか、あるいは歌といのは、そこに何百年と続いておるもんですもんね。これが僕は観光資源だと思ったんですよ。

ですので、もし武雄でオルレをする場合といのは、ちょっと今欠けているのは飲食の部分が欠けているんですけども、それは何か店をつくったりとかじゃなくて、今あるもので、だから、このコースになっているところはみんなキムチを漬けてもらおうかなと、それは冗談ですけども、（笑声）冗談ですけど、もう少しフレンドリーに話す。そこに行かれる方が、例えば少しでも韓国語で話せば、アンニョンハシムニカとか、オムニとか、カムサムニダとかといっ話せば、それはそれで何かすごくまた交流が深まっていくんだろうなといのを思いますので、我々としてもぜひ済州島のオルレを見習いながらしてまいりたいと思います。

ですので、ぜひ議会におかれても、宮本栄八議員さん以外はぜひ行ってほしいと思います。行って、（発言する者あり）いや、失礼じゃないですよ。あれだけ、あれですよ、武雄を宮本栄八議員さんのあのイエローペーパーで、本当に僕らはもう悪いイメージといのは立っているんですよ。ですので、もう行ってほしくないです。ですので、それ以外の良心良識ある議員さん行っていただいて、ぜひそれをね、こういうふうに改善したほうがいいといこ

とをぜひまたアドバイスを賜ればありがたいと思います。宮本栄八議員さんにはこれをプレゼントしようと思います。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員（発言する者あり）

静かに。

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ただ、楽しいお話を聞けました。我が武雄市にもそういうふうなオルレのコース、すばらしいコースがたくさんあるということで、私たちも楽しみにして、今度雨が降っても私たち婦人会のほうも歩いてみようねと話しておりますので、歩いていってみたいと思います。それから、おもてなしについても、私たちにできるところは私たちが手伝いながらやっていきたいなと思っております。

それでは、きょうの私の質問はこれで終わります。楽しく明るい元気な武雄市になるようによろしくお願ひしたいと思います。

終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で11番上野議員の質問を終わります。

ここで、モニター等の準備のため、10分程度休憩をいたします。

休	憩	13時49分
再	開	13時59分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、3番上田議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、3番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

師走に入りまして、大分外の気温も低いところで、寒さを身にしみているわけでございますけど、先ほどまで上野議員さんの応援団が傍聴席を埋め尽くしておりましたけど、見事にこの10分の休憩の間で誰もいらっしゃらなくなり、世間の厳しさを、世間の寒さを身にしみている私でございます。

本日、最後のバッターとして一般質問させていただきますので、最後までよろしくお願ひいたします。

それでは、本日、武雄市の今後の方向性についてと、毎度毎度でございますけど、通告をさせていただきます。

きのうから話が出ておりますけれども、現在、世間では衆議院選挙の真っ最中でございます。この3年3カ月がどうだったかというのは抜きにしましても、私自身が社団法人武雄青年会議所に始まり、日本青年会議所佐賀ブロック協議会と、県内一連の同志の仲間たちと常々取り組んできましたローカルマニフェストの推進活動、運動ですね。長年私も携わってきておりまして、私もこのマニフェスト選挙というのを非常に推進しておるところでございます。市長も毎度選挙に出られるたびにマニフェスト等を掲げられております。ただ、この3年3カ月でこのマニフェストの重みというのが何か軽んじられているような、個人的な雰囲気を感じておるところでございます。このマニフェスト選挙、市長はどのようなお考えをお持ちになられておりますか。私は推進をしておりますけれども、市長の考えをまず最初に伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕はマニフェストという言葉が大嫌いです。そもそもこれはイギリスのある党のお約束事項で来た言葉で、だから、日本になじまないからマニフェストとかとなっちゃうわけですよ。ですので、私はマニフェストという言葉を使ったことはありません。最初、具約と書いて、具体的なお約束というふうに書いて、その中身についても、あんな民主党の事細かなことを書くというのはやりません。それは無理ですもん。ですので、あれ本当ね、民主党を全否定するわけじゃないですけども、いい分もあります、政権交代してよくなった部分もあります。しかし、民主党の最大の負の遺産というのは、マニフェストが詐欺フェストになってしまったと。もう少し受けると思ったんですけど、これは余り言わないほうがいいんですかね、大丈夫ですかね。また訴えられると困っちゃうんでね。

本当にそうなんです。政治家の言葉、あるいは口頭の約束がもう信じられないとなっているんですよ。ですので、やっぱりできないことは書くなと、あるいはやれることをちゃんとしっかり書くということにとどめておいたほうがいいと。今回、国民の皆さんたちみんなそう思っていると思いますよ。ですので、JCの皆さんたちにお願ひしたいのは、やっぱりその検証をちゃんとやってほしいということなんです。そうすると、あんな民主党のばかなマニフェストなんか出てきませんよ。検証をしっかりする、その上で最低限すると、これはどうできましたかって。ですので、今度政権をとると、また変わるとは思いますけれども、そのときもしっかりJCは見ていくべきだと思いますね。そういうことをしないから、この前みたいなバラ色になってしまったというふうに思っていますので、余り細かく数字は書かない、政治は基本的に意思です。その政治の意思に基づいて、それを細かく順序立てしていくのが行政の仕事だと思うんですよ。だから、そこを政治が何でも細かい数字を書くというのは大反対です。ですので、今度そういうふうな形になっていけばいいなということは思い

ます。そういう意味で、私はマニフェストという言葉は嫌いですが、具体的に細かくじゃなくて、具体的に書くことについては賛成、しかも、それにちゃんと検証をするということが絶対に僕は必要だと、このように思っております。

それと、最後にします。議員さんのマニフェストと我々首長とまた違うんですよ。違うんで、その整理というのは必要なのかなということも思います。それと、地方議会と国会とまた違いますもんね。ですので、その整理は必要だと。それはJ Cでぜひ提言をしていただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

3 番上田議員

○3 番（上田雄一君）〔登壇〕

まさにそのとおりなんですよね。もう言ったことをやれと、だから、今回の選挙もマニフェストをしっかり皆さん見きわめてぜひ投票に行くようお願いしたいなと思っております。

それでは、本題にそろそろ入っていきますけれども、今回、大きい項目に分けて、1、教育について、2、まちづくりについてというところで、教育については高校環境の諸問題について、これも毎回私がやっているところではあるんですけど、次に2番のまちづくりについては、大きく分けると物産まつりに学ぶ武雄のまちづくりについてみたいな感じかなというところがあります。

教育についてのところは、高校環境の諸問題については、今現在の子どもたちの進路状況、それから通学にかかる費用、通学にかかる時間、あとは県内の配置状況、西部地区中心になりますけど、それと今後の武雄市としての方向性というような、細かく分けるとこういう流れになるのかなと。これはでき上がったのを後づけの流れですけど。

それでは、早速本題に入りたいと思えますけど、まず武雄市の現状について。

現在の市内の市立中学に通っている3年生の数です。武雄中学校が男の子が134名、女子が93名で合計227名ですね。武雄北中が合計で41名、川登中が34名、山内中90名、北方中61名、これが今現在の武雄市内の市立中学校に通っている中学3年生の数です。これ合計しますと453名の子どもたちが今春3月で卒業を迎えるというところがございます。453名の子どもたちの進路先、これは過去4年間で全て全部、私が持っている情報で出そろいましたので、ちょっと調べてみました。

武雄中――すみません、ちょっと切れていますね。この辺が私の詰め甘さかなと思えますけど、平成20年97.8%、95.5%、93.5%、94.9%、これが高校に進学している割合です。この4年間の平均が95.4%、同様に北中、20年、21年、23年は100%です、全て全員が高校に進学をしていると。たしかここは1人かな、で99.5%、川登中が98.4%、これも20年と22年は全員が高校に進学している。山内中に至っても97.3%、北方中が95.6%、これを平均す

る97.2%の子どもたちが高校に進学していると、まあぱっと見はほぼ全員ですけど、97.2ということで100じゃありませんから、そのうち何名かは就職したり、家事のお手伝いをやったりというような子がいるというような状況です。実際453名の97.2%といいますと、440名の生徒が高校へ進学するという流れになります。その440名の生徒が進学する上で、じゃ高校はどこに行くのという流れになると、現在では市内には皆さん御存じのように武雄高校1校だけしかございません。この武雄高校が来春から、今度の4月から40名の6クラス、240名の定員になります。440名のうちの240名というような感じで見てもらうと困るわけで、このうちの半分、3クラスは青陵中から参ります。ですから、実際この子たちの中で行ける門というのが120名になります。どんどんどんどん門が狭くなってきます。ただし、この120名には大町からとか伊万里、有田、江北、白石、嬉野、鹿島など、武雄を中心とした近隣のほうからも参ります、当然。となると、ここちょっとすみません、これとデータとしては若干違うんですけど、内進組も全て含めた今の武雄高校の生徒の中で、ほぼ半数が武雄市の子どもというような話を先日ちょっと行って話を伺ってきました。となると、この240名の半数がほぼ今回武雄になるだろうという見込みです。当然誤差はあります。ただし、120名の武雄の子が進学できているかという、そうではなくて、既に青陵中学校の中に武雄の子が含まれておるわけですよ。もう既に20年には91名、21年82名、22年は86名、23年が82名、今の青陵中4クラスの中での160人の定数に対して、これだけの数の武雄市内の子どもが行っているわけですよ。となると、今の武雄高校の総枠の半分が武雄市の子、つまり120から、今が160のボーダーで計算していいのかどうか、ちょっとはっきりそこんたいはわかりませんが、これからいくと、新たに進学できるのはと考えると、もう四、五十人程度しかいないんじゃないかなというようなところを思っております。

となると、先ほど言いました440人の子が高校へ進学する、そのうち40人から50人、これはもちろん当然その年度年度の誤差はありますよ。ただ、それで先ほどの計算からいくと四、五十人ということで考えれば、およそ9割の子が市外の高校に通学を余儀なくされるという現状があると私は思うんですけども、これについて教育長はどのように思われていますか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

全体的に青陵中、武雄高校含め約半数ちょっとの子どもたちが進学しているという状況でありますので、そのような数字になろうかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これダブルカウントじゃないですか。これ青陵に行った子を入れた上で、またそれを差し引いているので、この90%という数字は僕は違うと思いますけど、ちょっとこれが出てくると、本当にそうなのかという話になりかねませんので、そこはちょっと議事ストップして、もう一回精査をする必要があると思います、議長。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休	憩	14時13分
再	開	14時17分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ただいまの暫時休憩につきましては、パーセントの違いじゃないかということでございましたけれども、答弁を求めます。浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

4月の募集人員が武雄高校の場合に青陵中学校から4クラス参ります。それから、募集が3クラスでございます。そうしますと、大体半数でありますので、募集の40掛ける3の120人の約半数60人が武雄市内の中学校から進むということになってまいります。現在、青陵中学校に4クラスおります。四四、十六、160人の約半数が先ほどの数字で、市内から行っているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

いや当然、今は青陵4クラスで、高校の場合が3クラスになっています。ただ、今春、今度の3月からは3クラスになります。当然、受験の結果というのもありますから、パーセンテージの前後というのは当然ありますよ。だから、私も一応前後という文言を入れておりますけど、これあくまでも注意してもらいたいのが市立中学校から入る子どもの数ということになりますから、そこをちょっとまず混同してもらわないようにしていただきたいなと思っておるんですけども。

そしたら、これは各高校に占める武雄の生徒の割合、A工業高校が26.3%、全体3学年に対してですね。B工業高校が23.8%、C高校が29.2%、Dが27.8%、Eが16.9%、武雄の子が進んでいる割合の高いところから調べると、こういう数字になります。つまり、一つの高校で、多いところになると3人から4人のうちの1人は武雄の子が進んでいるという結果になります。これにはもちろん武雄高校は含まれておりません。市外の高校で武雄の子がどの程度行っているのかというところでの割合を出したものでございます。ちょっと見方を変えると、武雄の子でその高校ももっているというような見方をしても過言ではないのかなとい

うような感じで思っておりますけど。

それでは、市立中学校を卒業する生徒の進学先をまとめてみました。県内の公立の普通高校に行っている割合が21年度が23.7%、22年度が25.8%、23年度が21.2%、これは当然武雄高校も含まれています。ほかにも伊万里高校であったり白石高校であったり、佐賀東や北、西、その辺の県内の公立高校が含まれている数字になります。これが県内の普通校ではない専門高校、工業高校だったり商業高校だったり実業だったり、今いろいろ農業高校もいろいろあるかと思っておりますけど、ここに進んでいるのが21年度が50%、22年度が48.5%、23年度が47.9%、これで既にほぼ半数の割合が出ているかなと。これに加えて、県内の私立の高校に進んでいる子どもたちというのが14.5%、22年度が12.9%、23年度が19.7%という数字です。もちろん当然この私立高校には普通科に進んでいる子もいますでしょうし、公立の専門高校にも普通科を常設しているようなところがあるかと思っておりますから、そういうところに進んでいる子も当然いるかと思っておりますけど、おおむね見方としては、この両側の数字というのが市立中学校を卒業した生徒の専門高校への進学割合になるという見方をするのがいいのかなと思っております。

これについて教育長はどのように見られているか、御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

佐賀県全体が専門高校への進学が多いという数があるわけでありますが、ちょっと今その数値が記憶にありませんので、確認はいたしますけれども、全体的に佐賀県の場合が高くなっているという状況はあろうかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、聞かれてなくて答えるのも甚だ恐縮なんですけど、僕この数字、意味ないと思うんですよ。というのは、自発的な意思で、例えば、石橋部長の息子さんは、偏差値が高いか低いか知りませんよ、ですが、自分から小学校のときから佐農に行くということで、日本の農業を立て直すという高い、お父さんとは違う志を持たれている。あるいは、私の親戚でもありますけど、もともと武雄高校に行く偏差値でも有工のデザイン科に行きたいという子もいるわけですよ。ですので、これは自発的かそうでないかというのがない限り、この数値というのはおよそ僕は意味がないというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

もちろん自発的かどうかというのは当然ありますよ。ただ、私が言いたいのは、結局専門高校に進学をしようとなったときに、これからちょっといろいろなところの情報を出そうかと思うんですけど、やはりふぐあいがいろいろなところであると思うんですよ。私の子どもだって、ここですよ。ここに入っていますよ。だから、それは子どもの意思でそういうところに行っているのはそれはそれでいいですよ。ただ、中学3年生の時点でそこまでびしょと、早いほうがいいんでしょうけど、そこまで結論を出せる子どもというのなかなか少ないんじゃないかなと、本当に俺はここに行く、私はここに行くという強い意思があれば、それはそれで私は十分応援してやるべきことだと思いますけど、なかなかそうでない子どもも中におるといふようなところでちょっと行きたいと思います。

結局今の状況でいきますと、武雄からおおむね多いのは進学先としてはここをまず見たほうがいいのかと。ちょっと武雄温泉駅を中心に考えるのが恐縮ではあるんですけど、一応今武雄高校に行かない場合は電車通学ということを考えれば、通学費用面で武雄温泉駅から佐賀駅までは今現在、定期代が1カ月8,140円かかっています。肥前白石駅だと7,410円、有田駅だと5,820円、嬉野の場合は電車がありませんのでバスになりますけど、バスになると1万9,800円と、こういう金額が保護者の負担がこの部分要るといふような流れになります。ここが特に私は多いというふうには保護者の方からも聞いているんですけど、この定期代、金額が結構な金額になりますので、実際は保護者の方が送って、迎えに行つてとしているところも伺っております。

一方、今度時間面で見ますと、武雄温泉駅から6時9分発、佐賀着は6時49分です、これは始発です。これより早いはありません。これで行くか、この次ですね、6時50分発、これで行くしかないんですよ、佐賀まで行くには。武雄温泉駅から白石駅になると、6時50分発、7時31分発、これだけです。逆、先ほどの登校の分の時間帯ですね。今度は帰り、帰りは子どもたちによってもいろいろ、部活をやっていたり、補習があったり、特科があったりとかいろいろあると思いますから、そこら辺の違いは当然出てくるかと思いますが、この辺からおおむね帰宅に使う電車の時間帯になると。この辺は当然部活もそういうのもできないと思うんですけど、部活をやっている子どもというのはほとんどがこれかこれということで聞いています。うちの子もこういうのでほとんど帰ってきますから、結構電車の中はそういう子ばかりと。ほとんどの子どもが部活をやる、補習を受ける、特科を受けるとなると、ほとんどの子が9時5分か10時17分に武雄に着くと、こういう時間になります。

一方、白石駅で見ると、こういう時間ですね。時間的には4時32分から筆頭に9時40分ぐらいが普通に帰れる時間かなと。ここを見てもらいたいんですけど、4時台の電車だと武雄まで27分で着くんですよ。ただ、部活動とか行くと、6時55分とか7時58分に乗ると、武雄まで86分とか67分かかる。これ乗りかえがあるんで、肥前山口駅かどこかでの乗りかえがうまくスムーズにいかないということで、この時間かかっていると。部活動をやるとなると、

当然この辺の時間になりますから、乗りかえが不便で1時間以上かかっていると。実際のところふたをあけると、男の子は自転車で1時間かけて往復していると。片道1時間ですね、おおむね1時間です。行くという子どもがたくさんいるようでございます。

こういうことについて、朝は6時台、帰りは家に帰るのは9時半とか10時、こういう現状を見て、教育長の見解を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ちょうど白石から武雄温泉駅への時刻表を出してもらっていますが、確かに86分、67分、肥前山口駅での乗り継ぎの待ち時間というのがありまして、どうかしたら1時間近くあるわけですね。これにつきましては、ちょっと白石と佐農の校長先生と話したときに、随分要望はされているようでありまして、もうちょっと前のほうが長くかかっていたのがちょっと後に来ているのかなというような気がしますけれども、いずれにしても、通学上は時間的に時間がかかっているということはあろうかというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これはあるべき姿じゃないかもしれませんが、私は許容の範囲内だと思います。というのも、例えば、牟田議長さん、高校時代、この方は私の家の前を1時間13分かけて武雄高校に行かれた、私もそうです。私も場合によってはアップダウンの激しいところに行っていましたので、四、五十分かけて行っていました。これ例えば、北海道とか、私が先般お邪魔した富山みたいに2時間かかる場合があるわけですよ。片道で2時間、3時間と、それはさすがにいろんな支援をしなきゃいけない、応援をしなきゃいけないとありますけど、これは理想の姿じゃないかもしれないけれども、私は許容の範囲内だと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

まあ許容の範囲内かどうかというのは、個人の見解の相違があるかなと思います。というのも、昔、私たちの時代と時代が違うと言われてもしようがないのかもわかりませんが、今「早寝早起き朝ごはん」というのを推進しているにもかかわらず今のそういう状況というのがちょっと私は納得いかないのかなというところもあります。ただ、先ほど教育長がおっしゃられたように、たしかこれやったと思うんですよ、この5時50分発、これが昔はもっと、60分、70分かかっていた時間帯だったはずなんですよ。これがダイヤ改正によって改善をしてもらったらしいです。ここら辺がまだそこまでいっていないというような状況ですし、

この1時間自転車通学というのも、おっしゃるのはよくわかるんですけど、男の子はよかたですよね、結構、雨に濡れてでも、かっぱ着ても自転車でどンドンやって行くというのはあるんですけど、女の子がかわいそうかなというのがあって、非常にそこは悩ましいところです。私の娘も自転車で30分かけて駅から行っていますよ。雨の日も晴れの日も、うてあいませんから、自分で自分なりに頑張っている。そういうのがあるんですけど、ここに書いてありますように、先ほどの話じゃないですけど、通学時間というのは大小さまざまありますけど、今ここに算出している時間はあくまでも武雄温泉駅を基準に算出しているわけでありまして、これが武雄町の人間とか朝日町の駅周辺、またその山内の駅周辺、北方もそうですね、駅周辺の皆さんはまだいいですけど、駅から遠いところ、周辺部の皆さんが駅までの時間というのもこれも通学の時間に入るわけであって、それからまた駅から到着してさらに次の目的地の高校、ここに行く通学時間というのも当然ありますから、本当市内さまざまなんですよ。あくまでもここで今言っているのは電車通学の電車の時間帯だけを算出していますから、それ前後の通学時間を入れると、もっとさらにかかっているというような状況であります。

それでは、ここ今県内の高校の分布図ですね。学区別に分けられた分布図です。これが毎回私が出している資料なんですけど、これすみません、平成20年の6月現在の人口の数なんですけど、武雄市は5万1,826人の人口に対して公立高校が1校、ですから、1つの高校にかかる人口の割合を見ると、武雄は5万1,826人になります。佐賀市は23万人以上の人口がありますけれども、公立高校は7校、市立が5.5校、この.5というのは女子校のことです、女子だけの高校がありますから、それで割ると人口3万3,000人に対して1校があります。小城市は2校あります。ですから、人口で比較すると2万3,000人、おおむねこういうふうな数字ですよ。この人数に対して、今現在、公立高校が1校ありますよという数字になりますから、やっぱり武雄だけ突出しているんですよ。こっちは私立の高校を含めた数字です。以前はここが武雄市は公立が2、私立が0.5でありました。そういう中で、県内10市の中の環境というのは私は突出していると思っております。

この県内の高校の分布図を見てもらいたいんですが、小さくて見づらいんで、ちょっとエリアごとに拡大してみます。これ伊万里地区です。伊万里地区だと伊万里農林と伊万里高校の距離というのが、これ歩いての距離になるんですけど、おおむね1.8キロです。伊万里高校から伊万里商業までの距離というのがおおむね2.5キロ、伊万里農林と伊万里商業が3.7キロ、つまり一番長い距離で3.7キロ四方の中に高校が3校、伊万里には集中しています。

これで、こちら藤津・鹿島地区、嬉野・鹿島地区、嬉野高校と塩田工業の距離というのが歩いておおむね9.1キロ、これはちょっと比較にならないんですけど、ここですね、鹿島実業と鹿島高校の距離というのは305メートル。こちら杵島地区ですね。杵島商業から白石高校が3.4キロ、杵島商業から佐賀農業が5.1キロ、佐賀農業から白石高校が歩いて、これは遠

回りしないといけない道しかなかったんで1キロになっています。

これで見ると思うんですが、伊万里地区、杵島地区、藤津・鹿島地区、嬉野・鹿島地区、ここに高校が集中しているわけです。私が思うのは、この西部学区での地域間バランスというのがとれていないんじゃないかなんかと思っているところがあるんですよ。やはりこの黄色の丸、ここにあれば比較的地域間バランスはとれるんじゃないかなんかというような感じを持っておるところでございます。これについて教育長の見解を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これまでの議会におきましても、同様の御質問があったらというふうに思います。西部学区の3地区という区切り方についても申し上げたというふうに思っております。これまでの経緯からこういうような状況が生じているところだろうというふうに地図でわかることを私も思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（モニター使用）ちょっと上田議員、よろしければ前の見せていただけますか。市町別の、これです。すみません、助かります。

これも実は余り意味がないと思っているんです。というのも、例えば、武雄市の場合だったら、川登を考えてみましょう。あるいは山内の東部を考えた場合に、これは嬉野に近いんですね。あるいは、牟田前議長さんのお住まいになっている若木に関しては、伊万里のほうが近いんですよ。これは私の実家の朝日もそうかもしれません。ですので、この市ですと、これは唐津でも鳥栖でも同じような話になるんですよ。ですので、この市別の人口比率というのは、別に僕は武雄市がいいとは言っていないよ。いいとは言っていないけど、これをずっと出されるというのはいかななものかなんかというふうに思いますし、環境は突出していないと思いますよ。突出はしていない、環境はそんなに良くないかもしれないけれども、僕は突出していないと思います。これも見解の相違かもしれません。

ちょっと進めていただいて、エリア別の、これですね、ありがとうございます。

武雄にあればいいんですけど、これ先ほど教育長が申したとおり、やっぱり歴史的な話があるんですよ。僕は固有名詞を挙げませんけれども、挙げるとまた訴えられかねませんので。例えば、ある工業高校が武雄市のある地区に進出をしたいという話がありました。そのときは町を挙げて反対しておるわけですよ。そうなんですよ。そういうことがやっぱりあるんですよ。これは鉄道の駅の話もそうなんですよ。だから、我々は今のこと、将来のことを考える前に、政治家は過去のことにも考えるべきなんですよ。それを振り返ってみたときに、

じゃ武雄のあるべき姿はどうかなと考えた場合に、私は、これは見解の相違と言われても仕方ないんですけども、このエリアだったら、この近くだったら許容の範囲だと思います。これが先ほど申し上げたとおり、北海道とか、あるいは先般行った東北で、このエリアがもっと離れていれば話は別ですよ。ですが、これ見ている、これユーストリームでも流れていますが、見てもらったらわかるとおり、そんなに遠くないわけですよ。僕は許容の範囲内だと思っています。これが例えば、通学で山口昌宏さんという議員さんがいらっしゃいます。この人は往復5時間かかっていたそうです。そんなにかかるんですかね、歩いて行っていたんですかね、わかりませんが。だから、そこまでいくと許容の範囲外ですよ。しかし、やっぱりこれは重ねて申しわけありませんけど、確かに武雄地区の円上にあるべきだというのは議員と同じです。しかし、環境が悪いとか90%とかなんとかというのは、どうしてもそこは同意できないというのが私の見解です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私はこう思います。その上で、今度、県教委の諮問先である生徒減少期対策審議会の新聞の記事です。これを見てもらえばわかりますけど、高校は4から8学級が適正だと、3学級以下は再編対象という記事です。ここの記事を拡大しますと、これも言っていることは一緒です。適正規模は1学年4から8学級、3学級以下で定員や教育活動を維持できない場合は再編対象という記事です。この次にもちょっとあるんですけど、ただ、学校の専門性や特殊性、地域の実情など特段の事情があれば3学級での存続も認めるという記事があります。

ここをちょっと見てみたいと思うんですけど、現状はどうなのか。今度の春、4月入学の募集定員を見えます。太良高校は募集定員80名です。募集定員120名というのが厳木、高志館、唐津南、伊万里農林、佐賀農業、伊万里商業、杵島商業、鹿島実業、唐津青翔、嬉野高校、県内でこの11校が、先ほどの前の記事にもあったように、1学級4から8を維持できていない、つまり3学級以下での募集定員の高校です。11校ある中で、太良、伊万里農林、佐賀農業、伊万里商業、杵島商業、鹿島実業、嬉野高校、この7つの高校が武雄を含む西部学区になります。つまり、何が言いたいかというと、この西部学区の高校の7校が、先ほどの記事にもありましたように、地域性だったり特殊性だったりというのを維持できれば存続は可能ですけど、それがなければ再編の対象だというようなところに当てはまる高校になります。ここに当てはまるわけですね。私が思うのは、これがどこを見て、何年後で答申されているのかというのがちょっと私は疑問が残るところであるんですけど、これだけの高校がある中で、7校が西部学区、これが指す役割、意味、次のこの記事と関連して、教育長はこの状況をどう思われていますか、どう見られているか、見解をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先般まで行われておりました再編の対策審議会は、本当にこれから33年ぐらいを見越して、非正常な少子化が進むという中でのかなりの削減をしないといけないだろうという決意のもとに進められているようであります。そういう面では、現在の3学級以下の11校のうち7校が西部学区というのも、現在の少子化の状況からは西部学区の減というところは当然の形かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私もそう思うんですね。この状況というのは、ちょっとまあ避けられないような現状なのかなと、1学年の適正規模が4クラスから8クラス、3クラス以下は再編の対象と。ただし、専門性、特殊性、地域の実情など特段の事情があれば3学級でも存続を認めるということではありますけど、一方で、中学卒業見込み者数の推移です。やはりこの少子化というのは右肩下がりで、見ればごらんとおりすぐわかるかと思います。ここ25年の3月、ここが今度の卒業生の該当するところですよ。ここから先、まだまだ減少が県内一円ではあるわけですよ。10年後を見ると、ここからするとほぼまだ1,000人ほど減るというような状況です。この少子化の流れの中で、11学校の中の7学校が西部学区にあって、11校が適正規模を満たしていないという中で、これから10年先、もっと維持できないところがいっぱい出てくるのかなと危惧しているところでもあります。

ただ、その中で武雄で考えていけば、ちょっとこれは見づらいんですけど、これはゼロ歳児から15歳児までの武雄の子どもの数です。ゼロ歳児が448人、15歳児は568人いますけど、そこから減少傾向ではあります。減少傾向でありますけど、450人前後を維持していると。これをグラフに直すと、これがすみませんけど、こっちが15歳です、向こうがゼロ歳です。ですから、本来グラフをつくる場合は逆になりますので、右肩下がりで、このグラフは左肩が下がりますけど、これ反対に見てください。ただ、よその地区と比べると、武雄はそんなにさほど、この減少率というのは少ないです。

そういう状況を踏まえて、これまでの議会の動きを御紹介しますけど、さきの9月議会において意見書案を提出させていただきました。武雄市における高校教育環境の整備を求める意見書を9月議会に提出させていただきました。これがここにいる皆さんのおかげで全会一致にて可決しました。この可決を受けて、福祉文教常任委員会では県のほうに陳情を実施しました。そのときの陳情書の表紙になりますけど、県の副議長と石丸県議のほうに間を取り持っていただきまして、稲富県議はそのときはちょうど何か視察か何かで御都合が悪いということになられたんですけど、石丸県議のほうで対応をしていただきました。これが県の教

育委員会への陳情をしているところの様子です。ここは、すみません、委員長はちょっと写っていないですけど、福祉文教常任委員会のメンバーで行かせていただきました。

では、今回、教育委員会としては、この教育課程に関するアンケートを実施されております。この保護者の声を吸い上げるためにということで、6項目にわたりアンケートを実施されておりますけれども、その中の1つに、少子化が進み高校再編について話題になっております。中学生の進路についてどのようなことを望まれますかというアンケートがあります。先ほどの流れからいくと、ここがまず物すごく知りたいところであるんですけど、その前の段階も知りたいんですけど、そこら辺は今の現在の状況はどうなっているんでしょうか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

当面する武雄市の教育上の課題についてアンケートをとったところでありまして。その中で、お話にありましたように、高校再編についても保護者の皆様の御意見をお伺いしたところでございます。今、自由記述欄への記述等の整理がちょっと時間がかかっているわけでありまして、今週末あたりにはアンケート結果として公にできるかというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

自由記述欄、ここですね。ここの部分ですね、ここの集計はできていないということですけど、私が一番聞きたいのはここですよ、その上の少子化が進み、ここの部分というのはまだ集計ができていないということですか。じゃここにアンケートの集計結果は公表を原則としますが、個人が特定されるような記述はもちろんその辺は非公開としますが、公表を原則としますというふうに記載されております。これについては、今後どのような公表をされる予定なのか、そこら辺を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

それぞれの項目につきまして、その数値、それから今記述等の意見というのが累計ができるのかということですね。例えば、高校再編につきましても、恐らく想像される場所は一致するだろうと思うんですが、やっぱり普通高校なり専門高校なりと分かれるというような形も当然出てくるわけですね。そしたら、その中でも自由記述欄で累計ができるところもあるんじゃないかということでの作業をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに自由記述欄のところは教育長が申し上げるとおりだと思うんですけども、これはもともと何をやるかということなんですけれども、全国の共通の学力テストがあるじゃないですか、あれ今まで明かしていなかったんですよ。これ国費を投入してやる以上は少なくとも、例えば科目、あるいは学年別にその数値というのを出すべきだというのが私の見解だったんですよ。だけど、これは押しつけてはいけない、ワンマンになってはいけない、ですので、これを保護者の皆さんたちに聞いてみようということで、このアンケートをまずしようというふうに私が持ちかけたんですね。で、教育長が、これ見解が全然違います、180度、教育長と僕とは。これがいいと思うんですね。ですので、じゃ保護者の皆さんたちに聞いてみようということで、あわせて上田議員から御指摘のある中学生の進路についてどのようなことを望まれますかというのは、これ教育委員会の独自の見解で載せたということで、ちょっと僕も今手元に持っていませんけれども、少なくとも学力テストの公開については大部分の方々がそれは望ましいということを受けましたので、今週末にこの部分についてはフルオープンにします。フルオープンにして、県の教委との調整もありますけれども、調整がつけば今週の金曜日に各学校並びにうちのフェイスブックページで全部出します。

その一方で、出すべきもの、先ほど教育委員会からありましたけれども、これも特定されない限り、変な集計とかせんで出すべきだと思いますよ。出して、それで皆さんがその問題意識というのを共有していただくということが僕はすごく大事だと思っていますので、これはちょっと金曜日に間に合うかどうかというのは、ちょっと置いといたにしても、それは個人に特定されないということがきちんと担保できれば、僕は全部出すべきだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

おっしゃるように、自由記述の書き方によっては、一つの選択、その意味合いも変わってきたりというのは当然わかると思うんですよ、私もそう思います。ただ、このアンケートをとって、公開を原則としているというところも一応記載はされておる中でですので、私もそれは公開してもいいんじゃないかなというところはあります。ただ、先ほどの上野議員さんからの質問のところをちょっとおかりすると、学校と地域、家庭、行政の連携というようなところで話があって、私、教育長の答弁を聞いていて、この前された市連Pと教育委員との懇談会ですね、完全にもう非公開で自由討論をとにかくやろうよと、教育についてやろうよというような、そういう場を持ったわけじゃないですか。そういうところででもぜひやっていただいて、保護者の声をもっと吸い上げていただくということをやっていたら非常に

にいいんじゃないかなと思うわけですよ。なかなか公開となると皆さん言えないところもあったんですけど、最初にぼすつと、市連Pの会長さんが今回のこの会は非公開と、中身は一切外には漏らさないで非公開だと話があったら、どんどん今不満に思っていることとか、いろんなことを各学校の育友会の会長さん、PTAの会長さんがどんどん言い出したわけですよ。そういう場ででももんでいただければ、より保護者の声というのがまとまってくるんじゃないかなと。そこでも話がありましたけど、各単Pでもこのことについてもよく話をしてよとかいうこともあったんで、そこら辺はどうですか、そういうのも私はいんじゃないかなと思うんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

この高校の問題については非常に私もずっと慎重に発言させてもらったと思うんですね。いろんな要素が絡むし、これだけのことが他市町へも直接かかわる問題であるだけに非常に慎重にならざるを得ないと。したがって、いろんな懇談の場があるというのは大変いいことだと思いますし、私どももその情報を知った上で考えるというのは当然のことだというふうに思っています。ただ、やはり制度なり仕組みとして進めていく上では、その話を聞いたことの中でやっぱり取捨選択して考えて進めるということになるわけで、全てをそういう形でしたほうがいいということではないと思いますが、そういう機会も確かにできるだけ必要だろうか、両方必要かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕は違うと思います。基本的に公開が原則ですよ。やっぱりみんな関心を持っているわけですよ。物理的に来れない人とか後で知りたい人たちというのが、その場でだったら密室じゃないですか。もう公開が大原則ですよ。ただし、個人情報とかなんとかすごいデリケートにわたる部分というのは、これは非公開ですよ。ですが、今後教育をどういうふうにするのか、あるいは地域とどう連携をするのかというのは公開が原則です。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、私も説明が悪い。ただ、ここに公表が原則というふうに記載があるので、それはそれで全然いいんじゃないかなと思っております。

それでは、この高校について武雄市としての今後の方向性としてではあるんですけど、これは西部学区を拡大した図にはなるんですけど、これは前回の議会でも私申し上げましたけ

ど、やはり武雄高校と武雄青陵中学校を同一敷地内にて運営をし、それによって余った校舎を活用して新たに別の高校の運営をやはり武雄市としてはこれからも求めていくべきではないかなと思うわけです。ただし、前段でも話をしましたけど、少子化による高校再編の流れというのは、これは避けられないことだと思っております。これは先ほどの人口減少の部分も当然あるかと思しますので、私はこういう考えを持ってぜひ臨みたいなと思っております。例えば、2校を縮小するとなると、マイナス2プラス1で1校の縮小とか、2校縮小するんであれば3校を縮小してプラス1と、そこはエリアを考えて、十分可能な議論になるんじゃないかなと私は思うんですけど、これについての見解をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今年度末に案を作成するというふうに聞いております。そういう中で、先ほど来、話題になっている少子化というのは変わらない。したがって、高校再編せざるを得ないというのは事実だろうというふうに思います。それから、片方に中高一貫校の青陵中、武雄高校の成果も次第に出てくるだろうというふうに思います。

そういう中で、きょうおっしゃったような課題等があるかというふうに思います。したがって、この3月までの県教委の西部学区の再編作業の中で、武雄市としての可能性というのはどこにあるのか、そこは考えていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

きょうは上田議員となかなか意見が違って、これはいいことだと思うんですけど、私、高校再編のあり方は大賛成です、後段の部分の。確かに議員さんのおっしゃるとおり。これはいい案だなと思っておりますので、私も教育の懇談会に呼ばれる機会がこのごろふえていきますので、これはそういう気持ちを持ってお話をしたいと思っております。いい案をありがとうございます。

上は無理です。これ武雄青陵中をなくせということと同義ですよ。だって武雄高校を同一敷地内で運営、これは高校として運営するわけですよ。

〔3番「いや中高」〕

中高で。

〔3番「同じ敷地内で中高一貫」〕

敷地内で運営すると、それによって余った校舎で別の高校を運営するという、ああ、どちらにしても無理です。やっぱり我々政治家は現実問題を考えなきゃいけない。もちろん理想を追うということは大事だけれども、やっぱりできないことはできないと言うのが僕の

姿勢なんです。これだけ少子化が進んでいって、これ理科の実験だったらいいですよ、これやってもいいと思いますよ。ただし、武雄青陵中は産声を上げて、今歴史をつくろうと思って懸命に学校の先生とか地域の皆さんとか保護者とか生徒諸君が頑張っているわけですよ。その気持ちというのを僕はこれをやるとないがしろになるような気がするんです。ですので、僕はあの地で生まれた以上は、それは一生懸命応援するというのが僕は政治家として求められていることだと思いますので、これについては僕は反対します。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど意見書等々、ここの議会で全会一致で可決したというところにこれは記載をしているんですよ。

〔市長「だから、僕は反対です」〕

だから、一応それは議会と市長の見解の相違があるというところであると思います。ただ、私も武雄高校の学校の関係者、青陵中関係者の方に話を伺ったところ、県内では中高一貫が同一敷地内でやっていないのはここだけなんです。やはり同一敷地内でやることによってメリットは十分にあるというのは、どちらの見解もそういうふうだったので、それはそれでぜひ実現してもらおうのが一番いいんじゃないかなと思いますので、これを記載しているところでございます。

では、教育についてはここら辺で終わらして、次、まちづくりについて入りたいと思います。

観光のまち武雄ということで、物産まつりに学ぶに武雄のまちづくりということで、この4項目を流れとしては上げておりますけれども、観光のまち武雄ということで、さきの9月議会にも一般質問させていただきましたけど、この楼門の塗装ですね、大分傷んでおるところでございますけど、この塗装というのがほぼ正式に決定をしているということで大変喜ばしいことじゃないかなと思っております。これが歴史的な建造物ということでいけば、これもそうなんですけど、今回は長崎街道沿いにある田代酒造跡、これもちょっと取り上げてみたいと思います。

新町にありますこの田代酒造跡ですね、私もいろいろ見に行ったところ、やはりかなり傷みが激しいのかなと思っております。私もこの田代酒造跡の外観は見たことがあるんですけど、この中はどうなっているのかなというところで、ぜひこの中の写真でもあれば見せていただきたいと思うんですけど、ここら辺どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

(モニター使用)中の状況でございますけれども、これが和室であったところの状況でございます。こちらの床が見えていますところはシロアリで根太が落ちておりまして、平成20年9月に畳とか根太を撤去しております。こういう状況で、用具等も散乱している状況でございます。

それから、軒先でございますけれども、瓦とか泥、基礎の部分が一部欠落している状況でございます。しっくい塀の一部もこういう形で崩落しておりまして、雨漏りも発生している状況でございます。

こういう状況で大分傷んでいるという状況でございます。

○議長(杉原豊喜君)

3番上田議員

○3番(上田雄一君)〔登壇〕

そしたら、さっきの写真が、すごい写真やったですね。この田代酒造跡、この建物の取得に至った経緯を一旦確認したいと思います。

○議長(杉原豊喜君)

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

経緯につきましては、平成8年2月、ですから、年度と申しましては平成7年でございます。最初に大関酒造については、田代酒造から所有権が大関酒造さんに移ってございましたので、大関酒造さんのほうから建物解体の打診があつてございます。その後、民間団体のほうから存続の要望があつてございます。平成9年の12月に最初に賃貸契約、建物が建っております部分だけの賃貸契約を結ばれております。それからその後、当時、中心市街地活性化に関する法律というのができまして、中心市街地の再生に向けて日本全国動きがございました。そういう動きに合わせまして、平成12年の7月に考える会、田代酒造跡地再生計画という提案書が提案されました。これにつきましては、地元の区であるとか歴史に関する団体であるとか振興組合とか、こういういろんな各種の団体が合同して企画をされて提案という形になってございます。それを受けまして、平成14年3月に跡地の買収に至ったという経緯でございます。

○議長(杉原豊喜君)

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、珍しく怒っていますよ。何でこれを購入したのか。盗人に追い銭とまでは言いませんよ。言いませんが、これこんなの買っちゃだめですよ。もともと計画があつて、これをこういうふうにするということで購入すれば、多分納税者の皆さんたち納得していますけど、結局これ8,000万円も出しているんですよ。8,000万円も出して放置ですよ。今空き家ですよ、

ぼや騒ぎですよ。もう負の遺産ですよ。これね、当時、何というんですか、まち研さんですか、あるいはこれに携わった旧武雄市議会の皆さんたちというのは、猛省を促したいと思いますよ。これを買っているからこういう結論になっているわけですよ。ですので、やっぱり真つ当な行政をやらなきゃ、あるいは真つ当な決断をしなきゃ。だから、本当にこれがあることによってどれだけ我々が迷惑をこうむったかということについては広く市民の皆さんたちにも知ってほしいなというふうに思います。

ですので、我々政治というのは、これは後世で必ず言われるんですよ。僕らの言っていることも後で批判されるかもしれないんです。だから、これは単に批判じゃなくて、自分に対する戒めとしても私は言っているつもりでいますので、これの経緯を見たときに余計緊張感が走ったことを申したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

8,000万円で購入して、いろんな各種の団体等々にいろいろ案を出してもらったりして、結局これは何か、購入後一度でも何か利用されたんですか、そこんたいはどうですか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

実質は使われておりません。一部、がばいばあちゃんに関する資材の保存とか、そういう形では使っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

一度も使われていないというところで、ちょっと余りにも老朽化が目立っていたんで、管理上の不都合をお伺いしようかなと思いましたが、先ほど市長も言われたように、ぼや騒ぎ等々もあっているというところですね。じゃその対策として今何かやられているんですか、答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

平成18年の3月に不審火によるぼやということで騒ぎがありました。近隣の家屋への影響ということも想定されますし、あるいは子どもたちへの危険性ということも想定されますので、対策としましては警備委託をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

8,000万円で購入して使われていないと、さらにはそういうふうにならぬ状態で警備も委託していると。それ警備会社に委託すると当然ランニングコストもかかりますよね。

では、これは今後市としてはどうするつもりなのか、この方向性を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

解体します。その上で、広くどういうふうにするかというのは市民の皆さんたちにこういうふうに使いたいということ、あるいは議会の皆さんたちも、失地回復ですよ、議会の皆さんたちは。山内、北方の皆さんたちは関係ないですよ。ですが、旧武雄市議会の皆さんたちには失地回復、いい意見を出してほしいなというふうに思います。その上で、我々としては市民価値が高くなるようにするかということについては、いろんな用途を検討した上で、また再度議会に相談させていただいて、議決という形でまた使っていきたいと思います。その間はまず解体、一方で、その中で何年かかけて、1年か2年かわかりませんが、時間をかけてどういうふうにするかということについてはいろんな意見を、行政の中でもいろんな意見を出していきたいと思いますので、万機公論に決すべし。この場所、もともと田代酒造があるところというのはいい場所なんですよ、歴史的に見ても。ですので、その場所の優位性を生かして、どういったことができるかというのは広く市民の皆さんの声に耳を澄ませてまいりたいと、多聞第一、そのように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

解体というような方向ですね。それはわかりました。

そしたら、ちょっと気になる、ここですよ。地元の区、またその関係のいろんな、先ほど出てきた団体関係ですね、そこら辺は多分歴史的な部分というのがあるからこその話だと思うんですよ。だから、そこら辺の皆さんとの調整というのはどうなっているか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件については、やっぱり地元が第一ですので、宮下部長を中心として地元新町区を初め、町のまちづくり協議会、あるいは観光協会、歴史研究会、建築士会にはこの状況を説明して、今後の方向性についても内諾をいただいていると、宮下部長がそういうふうに言っています。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

わかりました。なるべく関係団体と調整をしながらでお願いしたいと思います。

それでは、続いて武雄市の物産まつりについて振り返っていきたいなと思っています。

物産まつりは市長の演告の中にありましたけれども、来場者が5万人、さらには北方インターから会場までが渋滞をしたというような発言をされました。これについては、イベントミックスの効果があつたんじゃないかなと思うんですよね。物産まつりに合わせてちゃんぼんフェスティバルだったり、美味暮（おしくら）まんじゅう選手権、この議場ではフェイスブック学会、温泉通りほかを使つての食育まつり、そのほかにもいろいろとイベントミックスがあつたんじゃないかなと思っています。これちょっと色的には違いますが、白岩球場では高校野球の大会があつているというようなところでございます。

今回会場になつたのが昨年に続いて中央公園が会場というような形で選定されたわけですが、中央公園をするとなると、メリットとしてはやはりカーナビでも市役所というのは検索が簡単だと思うんですよね。だから、どんなところからでも来やすいのは来やすいのかなと。JRの武雄温泉駅から市役所の中央公園までだと歩いて5分ほどという流れの中で、非常にいい立地条件じゃないかなと思うんですけど、駐車場に関しては白岩運動公園と競輪場、総合庁舎などを利用しながら、シャトルバスで会場とのピストン輸送を行ったというような話を伺っております。

先ほどの話に戻りますが、5万人のお客さんは、要は武雄市民の皆さんの数と同じ数がどつと来たと。で、武雄北方インターから市役所のアクセス道路が渋滞を起こしてしまったということでありましたけど、中央公園の北側、松原通りは現在も区画整理事業の真ただ中であります。このインターから市役所はおおむねはバイパスのほうから来るでしょうけど、こっちのルートも当然使っていると思うんですよ。この区画整理事業の影響というのがこの物産まつりの会場までの渋滞に影響があつたのかどうなのか、そこら辺を答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

物産まつりに対する交通のことだと思いますが、現在工事しておりますが、暫定供用をしておりますので、それでも上下の2車線は確保しておりますので、工事が原因で渋滞したという判断はしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

工事が影響はしていないということですが、ただ、一般の利用者からすると、その道が工事があるとすれば、どうしてもそこを避けてバイパスのほうに行くんじゃないかなと思うんですよ。だから、影響が全くゼロということはないと思うんですけど、まあわかりました。

それでは、区画整理からいって、今度、西浦地区ですね。これちょっと前の写真なんですけど、ここからこの西浦交差点から奥に入る西浦通り、この事業が今の現状ではどうなっているか、ここをまず確認をしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

西浦通りにつきましては、現在、工事が入っています。まだ移転補償ができていないこともありまして、当面目標としているのは中町通りのところまでですね。あれを早く仕上げると。その関係で、交差点の関係で若干それから先のほうに何軒は移転せざるを得ん家屋が出てきています。まずそこまでを当面早く実施したいと考えております。

〔3番「予定」〕

今24年ですので、一応27年というふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

それでは、その先のほうに行きまして、今度は永松地区ですね。永松地区もここら辺がずっと改良工事が進んでいくんじゃないかなというようなところであるんですけども、こっちかな。ここら辺はどうですか。今後の予定としては、見通し、ここがいつあくのかなというのあわせてぜひ答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

駅の横で永松川良線という路線です。これ今、高架下だけあけておりますが、これを駅の南口のほうに延伸するという都市計画手続を今行ったばかりでございます。したがって、駅周辺整備と合わせてせざるを得ないということで、今年度、駅周辺のほうは詳細調査に入ります。したがって、平成25年度から本格的に事業に入りたいと思います。

これから上、まだ永松川のほうにはこれも中途半端で終わってしまいます。これにつきましては、富岡郵便局ですか、あの付近ぐらいまでを延伸するわけですが、これは区画整理の進捗状況を見ながら着手時期を探っていきたいと。おおむね27年程度になるかなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

永松地区も西浦地区もおおむね27年を目標にということですね。なるだけ早くやっていただければなと思っておりますので、お願いしておきます。

それでは続きまして、中央公園で物産まつりをやったんですけど、受けた感覚からいくと、フェイスブック学会等も始めて、県外からの集客というのも結構見受けられたんじゃないかなと思っております。

そこで、ちょっと新幹線に絡めていきたいなと思うんですけど、これがうまくいくと、まともっと武雄というのが近くなるなど、県外のお客さんからも見て近くなるなというところでありまして、ちょっと新幹線の話題に入りますけど、これ小さくて見づらいと思います。西九州新幹線の概要図、現在の事業認可の部分ですね。これについてですけれども、今の計画でいくと、肥前山口駅から武雄温泉駅まで在来線を使って、ここからまた来る標準軌、新鳥栖から武雄温泉までは狭軌というような今の事業認可ではありますけれども、これ前回の議会でも申し上げましたけど、これ北方の新橋地区の河川の氾濫、水害状況のときに撮った写真です。今の在来線のルート、ここをフリーゲージが通るとなると、どうしてもやっぱりここを通らんといかんわけですよ。ここは皆さん御存じのように、結構水害が発生する確率が非常に高いところだと私は思うんですよ。今のままいくと、ここを新幹線が通るような形、新幹線フリーゲージが通るような形になると、やはり大雨になるとすぐここ冠水してしまったりはすぐとまってしまう新幹線をつくってしまうというような方向になるんじゃないかなと思っております。こういうことです。在来線使用ということになると、ここでしよう。このルートを通ることになると、大雨時は走れないんじゃないかなという危惧をしております。

これは複線化については、新幹線スキームでということですので、これは大歓迎です。これももちろん大歓迎なんですけど、これで前回の議会でフル規格の話をしました。私も同様に思っているのは、在来線活用の既存ルートにとらわれず、ルート変更を趣旨とする答弁をいただいたところで、私も同意だったんですけど、そこで出てきたのが高速の上だったりとか高速の側道、それから大和インター付近に新駅設置、多久市方面から黒尾の山口良広さん家の前を通過とかというような答弁をいただいたかと思うんですけど、この答弁を要約すると、結局はこういうことなのかと、これは迂回ですよ。こういうルートを通るのかまだよくわかりませんよ、ルートのあれは。ここから別のルートを通っていくと、こういうことを申し上げられたのかなと。答弁を聞いている中ではどういうことを言っているのか、ちょっとわかりにくいかなと思いましたので、改めてここをもう一回答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは選挙の話じゃないですよ。今村雅弘さんという方が常々おっしゃっているのは、私はフル規格でいきたいとおっしゃっていて、自民党の主たる皆さんたちもやっぱり新幹線はフル規格がいいということをおっしゃっていますので、有言実行してもらいたいと思いますよ。有言実行しなかったのは民主党ですよ。

それで、そうやってきたときにこのルートというのは、以前答弁で申し上げましたとおり、前々の知事さんのときに話があって、少なくとも大和のインターあたりが新駅になって、そこから今の路線の北のほうですよ、ずっと多久のほうを通過して、ここに書いてありますとおり、山口良広さんの家の前を通過して、武雄温泉駅で長崎に行くということがフル規格の軌道上、それが一番効率的だということはもともと出ているんですよ。私も総務省にいたときは、その話は聞いていました。ああ、武雄はフル規格でいくとばいと思っていましたもんね。そいぎあれですもんね、何かフリーゲージという、あれは新幹線じゃありません、鈍幹線です。ですので、そういった意味からすると、私はフル規格、賛成。ただし、これは知事と気持ちは全く一緒なんですけど、それによって佐賀県の負担、あるいは武雄市の負担がふえるというのは反対です。あくまでもこれは国民の利便性が高くなるわけですよ、国民の。県外とか、だから、それでフル規格にするからといって、追加の費用負担を佐賀県とか武雄市がするというのは反対、真っ向反対します。ですので、一応そういうふうな経緯で、だから、これでいうと、どちらかというところの青じゃなくて、ショッキングピンクに近いのがもともとの案だというふうに私は稲富県議からも聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

まさに、ルートは私はちょっとあれですけど、こういうルートでもいって、とにかくフル規格を実現したほうが武雄のためにもなるし、日本のためにもなると思いますので、ここはやっぱりもっと声をどんどん上げていくべきじゃないかなと思っております。

次に行きます。そしたら、今回の物産まつりの会場となったのは中央公園だけでなく、ここですね、この建物がファミリーマートさんですね、の西側、街なか広場の手前になるとかな、街なか広場になるんですかね。そこら辺、とにかく市役所の前中央公園を一带にして、いろんなところを使ったと思うんですよ。イベントミックスの効果も当然あったかと思うんですけど、この部分ですね、この辺の部分を使われたというふうに思うんですけど、これが全体のパース図になります。これが市役所ですね。市役所前の中央公園、それからこの部分の広場、それからこっちもJA販売エリアとかというふうにあります。ここファミリーマートさんがこれですね。

結局ここでやった、場所的にはやはりここが一番の最適な場所だったのかどうなのか、改めて振り返ってみて、そこだけをちょっと確認したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

物産まつりの会場としては、市役所周りの周辺と、中央公園だけでは不足しましたので、街なか広場と松原地区開発エリアの2区画を使っております。また、高架下の通路まで利用して町なかでにぎわいを創出することができました。現段階では今の場所が一番最適だというふうに認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

私も立地条件からいき、にぎわい創出、町なかのにぎわいをつくるという意味で、私もここが一番最適な場所じゃないかなと思うんです。ただ、今後、ちょっと振り返ってみたときに、当然松原通りとかを中心とした区画整理事業というのは早く進めてもらって、お客さんたちが来んさったときも通りやすい道、またきれいな道、まちにしたときが本当はいいんじゃないかなと思うんですけど、ここですよ。この庁舎のこの部分です。新幹線の用地にかかったりとかということで、用地がまたさらに減るわけですよ、今後これから何十年後かにかけて。庁舎の問題も当然ある中で、長期的なビジョンを持ってこのことも考えていけないんじゃないかなと思うんですけど、これについて答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まだここでは言えません。

○議長（杉原豊喜君）

3番上田議員

○3番（上田雄一君）〔登壇〕

ここでは言えませんと市長の口から言うのはあれですけど、私は、もう最後になりますけど、この庁舎建設を考える上で、体育施設だったり、今回物産まつりをした中央公園だったり、ここら辺の全てのランドデザインを考えていくべきじゃないかなと。これを考えた上で移転新築をするべきだと私個人は思っています。そこら辺をぜひお酌み取りいただきまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で3番上田議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 15時31分